

画面で見るマニュアル

ファイル同期ツール
クローン for Windows

クローン for Windows Ver.2.30 による主な変更点

主な変更点	内容	参照ページ
VSS対応	VSS (ボリューム・シャドウコピー・サービス) に対応しました。	13ページ
ACLコピー対応	ActiveDirectory環境上のマスター /スレーブ間同期の場合に、ACL情報のコピーに対応しました。	14ページ
自動アップデート対応	新しいバージョンのクローン for Windowsを確認し、自動でアップデートします。	12ページ
DNS最大8個まで対応 NIC最大4個まで対応	それぞれの対応個数が増えました。 (従来はそれぞれ2個まで対応)	-

クローン for Windows とは.....	3
導入する.....	5
環境例.....	6
インストールする.....	8
メール設定をする.....	10
自動アップデート.....	12
同期設定をする.....	13
マスター / スレーブ間同期.....	14
クラウドストレージ同期.....	20
外付けHDD同期.....	27
Windows Server 2003 から移行する.....	28
お使いの LAN DISK がダウンしたら.....	29
ワークグループ環境でマスターがダウンした場合.....	30
Active Directory 環境でマスターがダウンした場合.....	32
スレーブがダウンした場合.....	34
クラウドストレージからの復旧.....	35
外付けHDDからの復旧.....	38
資料.....	40
ソフトウェア詳細.....	41
ログ表示.....	55
困ったときには.....	65

クローンとは

導入する

同期設定をする

ダウンしたら

資料

困ったときには

クローン for Windows とは

クローン for Windows (以下、クローン) は、LAN DISK 上の共有フォルダーを他の LAN DISK やクラウドストレージ、外付けHDDに同期するためのツールです。

NAS 同期

- クローンは、同期元 LAN DISK を「マスター」、同期先 LAN DISK を「スレーブ」と呼びます。
マスターの共有フォルダーを、スレーブの共有フォルダーに定期的に同期します。
- 設定したスケジュールにしたがって同期しますので、日中のアクセスが集中するタイミングは避け、夜間に同期するなど、業務に負担をかけないデータ同期を実現します。

レプリケーションとの違い

内容	クローン	レプリケーション
同期タイミング	設定したスケジュールにしたがって同期	データ変更があるとすぐに同期
データ保持	前回同期までのデータを保持	最新データを保持

スムーズな運用再開

- クローンは、共有フォルダー上のデータだけでなく、「設定情報」も同期します。
- いざというときは、スレーブを「マスターに昇格」することで、設定情報を引き継いでスレーブがマスターとして振る舞います。

設定情報とは

- コンピューター名
- ドメイン名(ワークグループ)
- IPアドレス
- ユーザー、グループ、共有情報
- クローンのジョブ設定

クラウドストレージ連携

LAN DISK に直接襲いかかる災害に備え、Microsoft Azure や Amazon S3 などのクラウドストレージにデータを同期できます。いざというときは、クラウドストレージからデータを復元できます。

外付け HDD 同期

LAN DISK に障害が発生したときに備え、外付けHDDにデータとネットワーク設定情報を同期できます。

いざというときは、外付けHDDからデータとネットワーク設定情報を復元できます。データを復元するのに容量に応じた時間が掛かりますが、低コストで備えることが可能です。

同期先と復元内容

クローンは、同期先により復元できる内容が異なります。

同期先	復元できる内容	
NAS (スレーブ)	ネットワーク情報	コンピューター名 ドメイン名(ワークグループ) IPアドレス
	ユーザー情報	
	グループ情報	
	共有情報	フォルダー ファイル
	クローンのマスター/スレーブ間同期のジョブ設定	
クラウドストレージ	同期設定したフォルダー内のファイル	
外付けHDD	ネットワーク情報	コンピューター名 ドメイン名(ワークグループ) IPアドレス
	ユーザー情報	
	グループ情報	
	共有情報	フォルダー ファイル
	クローンのマスター/スレーブ間同期のジョブ設定	

また、以下の制限があります。

- 世代管理はできません。(世代管理をおこなう場合は、世代管理が可能なバックアップソフトの併用をおすすめします。)
- ACL情報のコピーは、ActiveDirectory環境上のマスター/スレーブ間同期でのみ可能です。
- 同期データからファイル/フォルダー/ボリューム単位での復元はできません。
- システムファイルの同期はできません。システムファイル(フォルダー)は、同期時の対象数に含まれません。
- NTFSファイルシステムにより暗号化されたフォルダー/ファイルの同期はできません。
- NTFSファイルシステムにより圧縮されたフォルダー/ファイルは同期できますが、同期先では圧縮は外れます。
- 共有フォルダーの引き継ぎはサーバーOSのみ対応しています。
- DNSは最大8個まで対応、NICは最大4個まで対応しています。

クローンは

導入する

同期設定をする

ダウンしたら

資料

困ったときには

Windows Server 2003 などからのデータ移行に対応

32ビット版のクローン(マスター用)をご用意しています。

Windows Storage Server 2003 R2から新しいLAN DISKにデータを移行できます。同期後に、新しいLAN DISK (スレーブ) を「マスターに昇格」することで、データ移行ができます。

導入する

環境例	6
インストールする	8
メール設定をする	10
自動アップデート	12

クローンとは

導入する

同期設定をする

ダウンしたら

資料

困ったときには

マスター/スレーブ+αの同期体制を整える

マスター/スレーブ同期体制に加えて、さらにクラウドストレージに同期

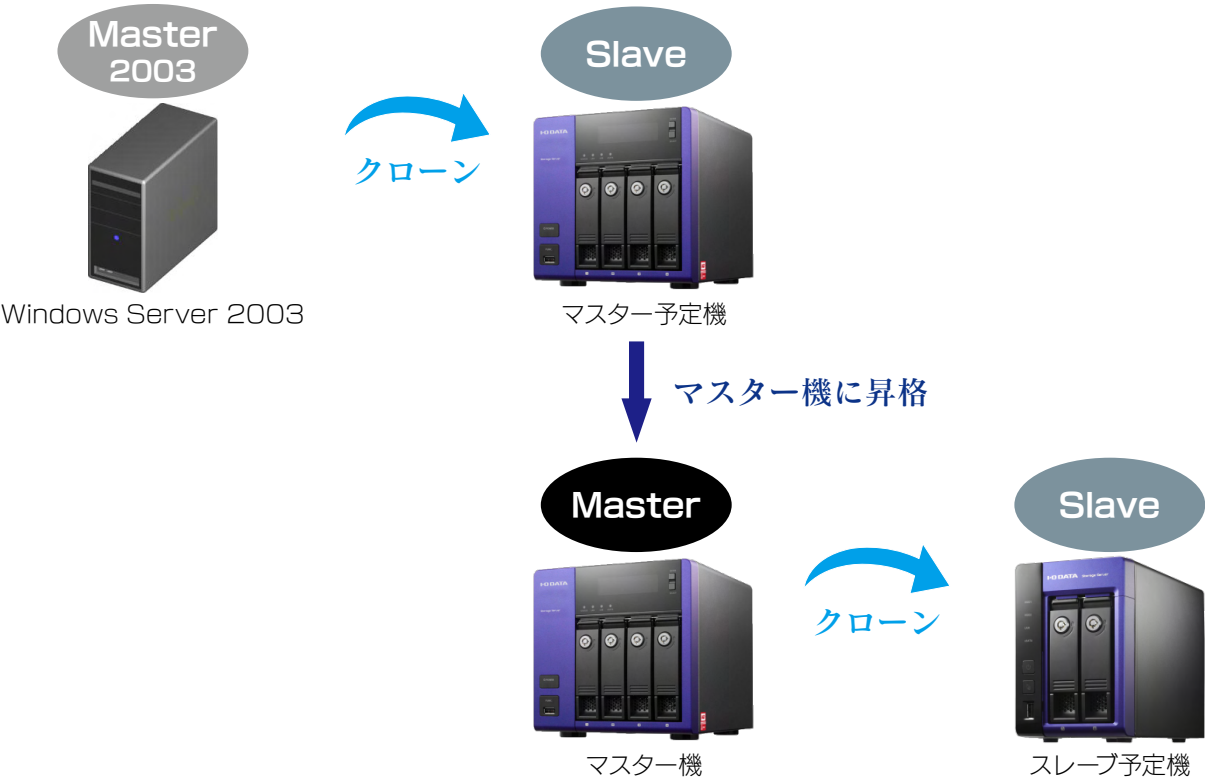
※クラウドストレージとの同期は、スレーブ側であることをおすすめします。業務の負荷と同期負荷の分散を図ることができます。



▶マスター/スレーブ間同期	14
▶クラウドストレージ同期	20

Windows Server 2003 から移行し、マスター/スレーブの同期体制を整える

- ①Windows Server 2003のデータを、マスター予定機(スレーブ) に同期
- ②Windows Server 2003をネットワークから取り外す
- ③マスター予定機を[マスターに昇格]
- ④スレーブ予定機と同期



▶Windows Server 2003から移行する	28
----------------------------	----

クローンとは

導入する

同期設定をする

ダウンしたら

資料

困ったときには

インストールする

インストールの前にご確認ください

すでに弊社製バックアップソフト「Sync with Business Edition」をご使用の場合

すでに弊社製バックアップソフト「Sync with Business Edition」をご使用の場合は、事前に削除してください。(以下の【クローンの削除方法】の手順で削除できます。)

インストールするクローンは、マスターとスレーブで同じバージョンを使用する

マスター機とスレーブ機にインストールするクローンは同じバージョンのものをご使用ください。

同じバージョンのクローンでないと、同期に失敗する場合があります。

自動アップデート機能を有効にすると、マスターのバージョンアップ時にスレーブもバージョンアップされます。(【[自動アップデート](#)】(12 ページ))

クローンの削除方法について

クローンを削除する LAN DISK で [CloneMenu.exe] を起動し、ボタンをクリックして画面の指示にしたがってください。(すでにクローンがインストールされている場合、どのボタンをクリックしても削除をおこないません。)

※クローンがインストールされていない場合は、インストールされます。

※コントロールパネルの [プログラムのアンインストール] からでも削除できます。

クローンをバージョンアップする場合

クローンバージョン 2.30 より、バージョンアップの際に、古いバージョンのクローンを削除する必要はありません。

※自動アップデート機能が追加になったことにより、新しいバージョンをアップデートインストールすることが可能になりました。

クローンは

導入する

同期設定をする

ダウンロードしたら

資料

困ったときには

インストールする

※クローンのインストール時に、OSは再起動されません。

1 インストールするLAN DISKで[CloneMenu.exe] を起動する



2



用途に合ったボタンをクリックする

ボタン名	対応OS	用途	マーク
マスター機用 インストーラー	Windows Storage Server 2012 (R2を含む) Windows Server 2012 (R2を含む) Windows Storage Server 2008 (R2を含む) Windows Server 2008 (R2を含む) Windows 10/8.1/8/7 (32/64bit) Windows Embedded Standard 7	マスター機 として設定	Master
スレーブ機用 インストーラー	Windows Storage Server 2012 (R2を含む) Windows Server 2012 (R2を含む) Windows Storage Server 2008 (R2を含む) Windows Server 2008 (R2を含む) Windows 10/8.1/8/7 (32/64bit) Windows Embedded Standard 7	スレーブ機 として設定	Slave
Windows Server 2003用 インストーラー	Windows Storage Server 2003 R2 Windows Server 2003 R2	Windows Server 2003 からの移行	Master 2003

以降は、画面の指示にしたがってインストールしてください。

クローンとは

導入する

同期設定をする

ダウンしたら

資料

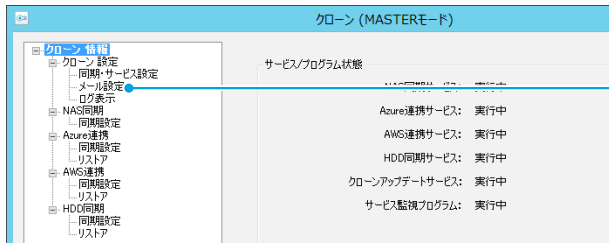
困ったときには

メール設定をする

クローンが同期に失敗した時など、メールで通知することができます。

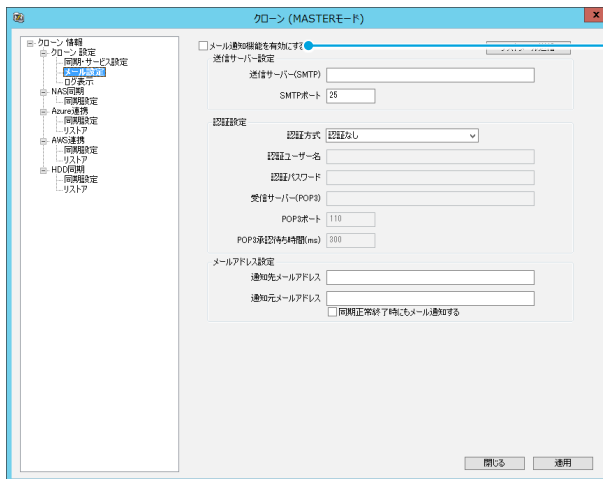
- クローンを起動する
⇒クローンマネージャーが開きます。

2



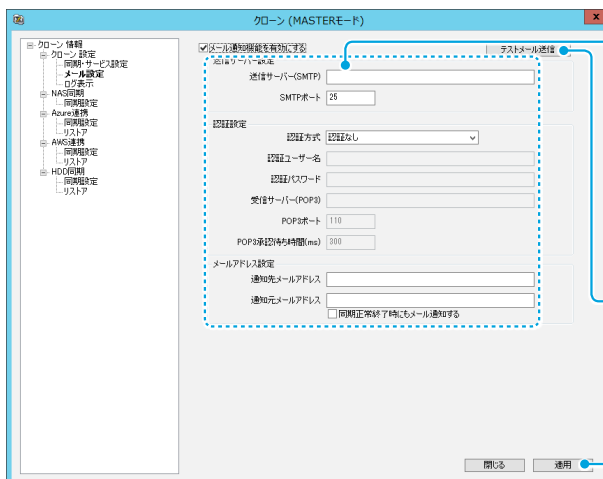
[メール設定] をクリック

3



[メール通知機能の有効にする] をチェック

4



① メールに関する設定を入力

② [適用] をクリック
⇒設定が保存されます。

③ [テストメール送信] をクリックし、
メールが届くことを確認する

クローンは

導入する

同期設定をする

ダウンロード

資料

困ったときには

Gmail を利用する場合

次の設定をおこなってください。

● Gmail のアカウント設定

※次の手順は2015年6月時点のものです。最新の各手順はGmailのヘルプをご覧ください。

次の設定1または2のどちらかを設定します。

- ・設定1：[安全性の低いアプリの許可]を有効に設定

Googleアカウントでログイン後、[アカウント情報]の[ログインとセキュリティ]から、[接続済みのアプリとサイト]の[安全性の低いアプリの許可]を有効にします。

- ・設定2：2段階認証プロセスを設定

※2段階認証プロセスを設定すると、他のGoogleアプリ用のパスワードの生成や設定など更に作業が必要になる場合があります。

①Googleアカウントでログイン後、[アカウント情報]の[Googleへのログイン]から、[パスワードとログイン方法]の[2段階認証プロセス]を有効に設定します。

②Googleアカウントでログイン後、[アカウント情報]の[Googleへのログイン]から、[パスワードとログイン方法]の[アプリのパスワード]で、本製品用のパスワードを生成します。

●クローンのメール設定

送信サーバー (SMTP)	smtp.gmail.com
SMTPポート	587
認証方式	SMTP AUTH(通信路を暗号化する)
認証ユーザー名	Googleアカウントのユーザー名
認証パスワード	Googleアカウントのパスワード (2段階認証の場合、接続用に生成したパスワード)

クローンは

導入する

同期設定をする

ダウンロードしたら

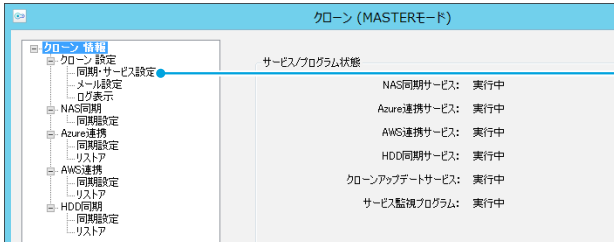
資料

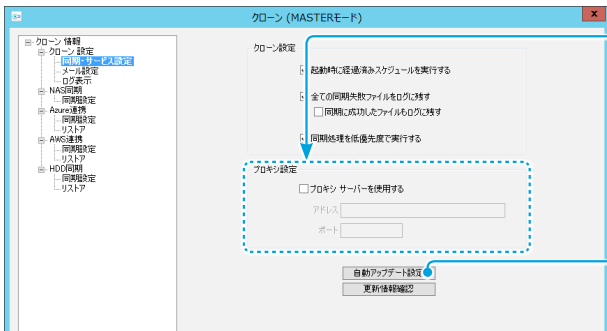
困ったときには

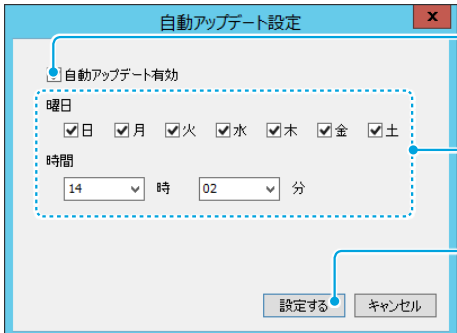
自動アップデート

新しいバージョンのクローンを確認し、自動でアップデートするように設定します。自動アップデートをおこなうためには、マスター、スレーブともにインターネットに接続されている必要があります。

- 1 マスターでクローンを起動する
⇒クローンマネージャーが開きます。

- 2  [同期・サービス設定] をクリック

- 3 
 - ①インターネット接続に必要な場合、プロキシを設定する
 - ②[自動アップデート設定] をクリック

- 4 
 - ① [自動アップデート有効] にチェック
 - ② [曜日] [時間] を設定
 - ③ [設定する] をクリック

これで設定は完了です。上記クローンマネージャーを閉じてください。クローンマネージャーが開いたままだと自動アップデートは実行されません。マスターが自動アップデート設定されていると、スレーブも自動アップデートされます。

スレーブでプロキシ設定をする場合

スレーブでクローンを起動し、[同期・サービス設定] をクリックして表示される画面で設定してください。

クローンは

導入する

同期設定をする

ダウンロードしたら

資料

困ったときには

同期設定をする

同期の前にご確認ください

- 同期先のスレーブ機、クラウドストレージ、外付けHDDの各フォルダー内にあるデータは、クローンから同期を実行すると削除されます。必要なデータは事前にバックアップしておいてください。

マスター/スレーブ間同期	14
クラウドストレージ同期	20
外付けHDD同期	27
Windows Server 2003から移行する	28

同期時の制限

- 登録できる最大ジョブ数は、15個までです。
- 1ジョブあたり同期可能な最大ファイル数は、64bit時は480万ファイル、32bit時は15万ファイルまでです。(フォルダーを含む)

増分同期とフル同期の違いについて

- 増分同期…前回の同期から変更があったファイルやフォルダーのみを同期します。
- フル同期…同じファイルやフォルダーがあってもすべて上書きして同期します。

VSS (ボリューム・シャドウコピー・サービス)

常通ロックされている(編集中など) ファイルをコピーはできませんが、VSS機能を利用すると、その「スナップショット(現在の状態)」を作成し、ロック中のファイルも含めてコピーを完了することができます。

※同期設定のオプション設定は、[同期・サービス設定]でおこなえます。[【同期・サービス設定】\(42ページ\)](#)をご覧ください。

マスター/スレーブ間同期

同期設定は、マスターのクローンを操作します。

同期先設定時のご注意

マスターとスレーブは1台ずつでの同期設定でお使いください。
 複数のマスターから同一のスレーブに同期設定をしてしまうと、同期データが上書きされてしまいます。



クローンは

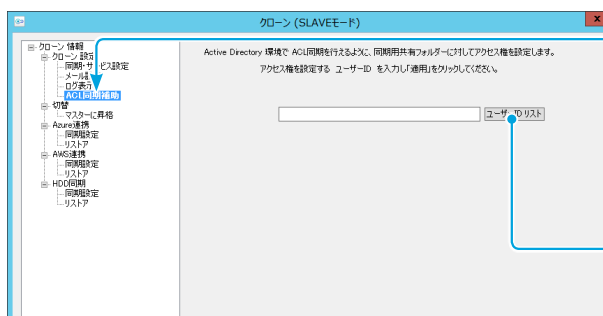
導入する

Active Directory 環境で、ACL 情報も同期する場合

ACL 情報のコピーは、ActiveDirectory 環境上のマスター/スレーブ間同期でのみ可能です。
 事前に以下の設定をおこなってください。

1 スレーブでクローンを起動する

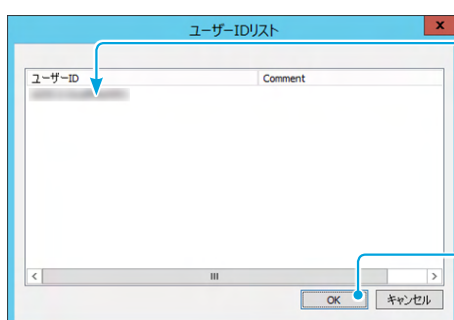
2



① [ACL同期補助] を
クリック

② [ユーザーIDリスト] を
クリック

3

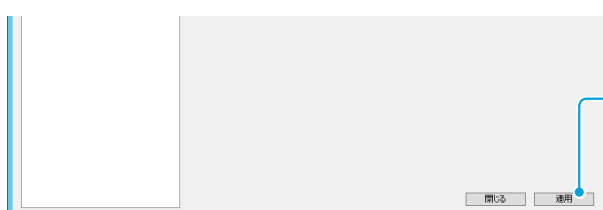


① ユーザーを選ぶ

※ Administrator 権限を持ち、
パスワードの期限が無制限の
ユーザーのみ表示されます。

② [OK] をクリック

4



[適用] をクリック

これでスレーブ側の設定は完了です。次ページ以降の手順にしたがってください。

同期設定をする

ダウンしたら

資料

困ったときには

1 導入の前に次の設定を決め、メモする

※ マスター/スレーブ間同期は必ず1対1の構成としてください。

項目		マスター	スレーブ
コンピューター名			
IPアドレス			
共有フォルダー	共有名		
	パス		

クローンを実行する前に

マスターとスレーブのドライブ構成は同じ構成にしてください。

クローンはとは

導入する

同期設定をする

ダウンロードしたら

資料

困ったときには

2 クローンを起動する

3

[NAS同期] の[同期設定] をクリック

4

[新規ジョブ作成] をクリック

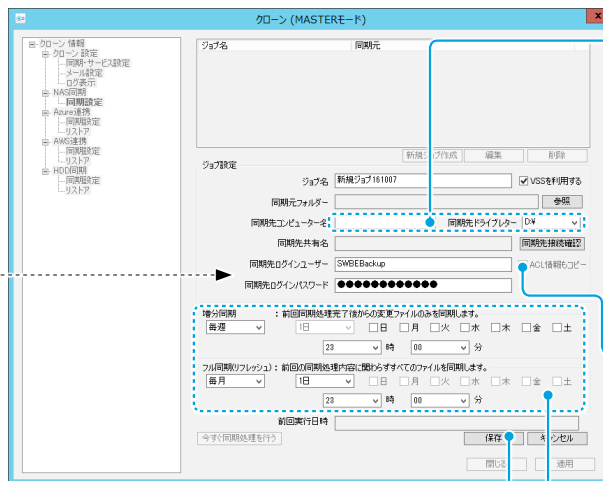
5

① [ジョブ名] を入力

② VSSを利用する場合は、チェックをつける

※VSSについては、【VSS (ボリューム・シャドウコピー・サービス)】(13 ページ) 参照

③ [参照] をクリックし、同期するフォルダーを選ぶ



④ [同期先コンピュータ名] を
入力し、[同期先ドライブ]
を選択

※VPN環境下など、ネットワークアドレスが異なる場合はIPアドレスで指定します。
※マスターとスレーブのドライブ構成は、同じにしてください。

⑤ ACL 情報もコピーする場合は
チェックをつける

※ACL 情報をコピーするには、事前にスレーブの設定が必要です。[【Active Directory環境で、ACL情報も同期する場合】](#) (14 ページ) 参照

⑥ スケジュールを設定する

毎週	複数の曜日とひとつの時刻を設定
毎月	ひとつの日にちとひとつの時刻を設定

⑦ [保存] をクリック
⇒ジョブが追加されます。

※同期先ログインユーザー、同期先ログインパスワードは変更する必要はありません。
※同一のスレーブに対し複数のマスターを設定できません。マスターを変更する場合は、次ページをご覧ください。

同期されないファイル
次のファイルは、同期されません。

- ・システムファイル、システムフォルダー
- ・ユーザー「SYSTEM」にアクセス権限が無いファイル

これで同期ジョブが登録されました。

スレーブへの設定反映について
クローン同期時にマスターの設定情報がスレーブに保存されますが、スレーブ側の設定は変更されません。スレーブの[マスターに昇格]時に反映されます。

データ転送速度の目安
10GB (ファイル数50,000) のデータで、約90分かかります。
ACL 情報もコピーした場合は、約100分かかります。
※ファイル数やサイズなどによってもかかる時間は変わります。

クローンとは
導入する
同期設定をする
ダウンしたら
資料
困ったときには

Windows Server 2003 から移行する場合

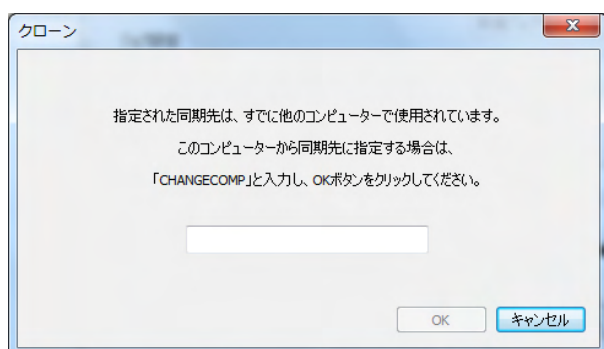
下の手順でデータを移行します。

- ① マスターにて、上記手順で同期設定を実行
- ② [今すぐ同期] をクリック
- ③ [はい] をクリックし、フル同期を実行する
- ④ フル同期が終わったら、Windows Server 2003 をシャットダウンする
- ⑤ [【ワークグループ環境でマスターがダウンした場合】\(30ページ\)](#)を確認し、スレーブに設定してある LAN DISK をマスターに切り替える

同期元を変更する場合

すでに設定されている同期先を指定した場合は、以下の画面が表示されます。

画面の指示にしたがって同期元を変更することはできますが、次回フル同期がおこなわれ、現在同期先にあるデータはすべて削除されますのでご注意ください。



クローンは

導入する

同期設定をする

ダウンしたら

資料

困ったときには

切替テスト

マスターがダウンしたことを想定し、スレーブの「マスターに昇格」後運用可能かをテストします。実運用前に必要に応じておこなってください。

マスター機の操作

- 1 マスターに適切なテストファイルを作成し、作成したジョブを使用して[今すぐ同期処理を行う]を実行する
※[【マスター/スレーブ間同期】\(14ページ\)](#) 参照
- 2 同期完了後、マスターの電源を切り、マスターをネットワークから取り外す
※ ネットワークから切り離れた後は、マスターの操作はありません。

スレーブ機の操作

- 3 クロウンを起動する

4

[マスターに昇格] をクリック

5

① 設定情報を確認する

② 各LANポートに反映されるネットワーク設定を確認する

③ [マスターに昇格] をクリック ⇒ スレーブ機にマスター機の設定がされ、マスター機になります。クローンもマスター機用になります。

Active Directory 環境でご利用の場合
[【Active Directory環境でマスターがダウンした場合】\(32 ページ\)](#) をご覧ください。

- 6 同期したデータにアクセス可能であることを確認する

クローンは

導入する

同期設定をする

ダウンしたら

資料

困ったときには

確認後の再設定(マスターに昇格したLAN DISKをスレーブに戻す)

- 7 マスターに昇格したLAN DISKのクローンを削除する
※ [【インストールする】\(8ページ\)](#) 参照
- 8 IPアドレス、コンピューター名をスレーブの設定に戻す
※ [【マスター/スレーブ間同期】\(14ページ\)](#) の手順1 参照
- 9 スレーブ用のクローンを再インストールする
※ [【インストールする】\(8ページ\)](#) 参照
- 10 マスターをネットワークにつなぎ、電源を入れる

クローンは

導入する

同期設定をする

ダウンしたら

資料

困ったときには

クラウドストレージ同期

マスター/スレーブのどちら側のクローンでも設定できます。

マスター/スレーブ環境がある場合は、スレーブ側で同期することをおすすめします。例えば、夜間にマスターからスレーブに同期し、その後にスレーブからクラウドストレージに同期します。こうすることで、業務内でもマスターに負荷をかけずに同期できます。

同期先設定時のご注意

同期元とコンテナ/バケットは1対1での同期設定でお使いください。

複数の同期元から同一のコンテナ/バケットに同期設定をしてしまうと、同期データが上書きされてしまいます。



同期先に自動作成されるファイルは、削除しないでください

[CloneForWindows] フォルダーに [f003ef6bb89b.UUID.Check] が自動で作成されます。

このファイルは、クローンで同期元識別に使用する必要なファイルですので削除しないでください。

クローンは

導入する

同期設定をする

ダウンしたら

資料

困ったときには

Microsoft Azure と同期する

クローンは

導入する

同期設定をする

ダウンしたら

資料

困ったときには

Microsoft Azure とは

Microsoft Azure は、Microsoft が提供するクラウドサービスです。

その内の1つのクラウドストレージサービスである Blob Storage ではコンテナと呼ばれる領域に、簡単にファイルの格納や、取得をすることができます。

Microsoft Azure に関する詳細は、Microsoft Azure のホームページをご覧ください。

→ <http://azure.microsoft.com/>

Microsoft Azure への同期に関する注意

- アップロード可能なファイルは、1 ファイル200GB までです。
- Microsoft Azure 上の Blob はブロック Blob のみが同期対象となり、ページ Blob は同期対象外となります。
- Microsoft Azure の Blob Storage は保存容量・通信量に応じて課金されます。頻繁に更新されるデータがある場合、請求額が大きくなる場合があります。
Microsoft Azure ご契約サイトなどで料金を確認しながら運用されることを推奨します。
- プロキシをお使いの場合は、[【同期・サービス設定】\(42ページ\)](#) でプロキシの設定をしてください。
- Microsoft Azure 同期の設定は、マスター/スレーブ間で共有されません。
スレーブをマスターに切り替えた場合、新しいスレーブに Microsoft Azure 同期の設定をし、マスター（元スレーブ）から Microsoft Azure 同期の設定を削除することをおすすめします。

Microsoft Azure の設定を確認する

事前に、Microsoft Azure (<http://azure.microsoft.com/>) にアクセスし、Microsoft アカウントを作成してください。

Microsoft アカウント作成後、さらにストレージアカウントやコンテナを作成、およびプライマリアクセスキーを確認し、以下をメモしてください。

・コンテナ名 ・ストレージアカウント名 ・ストレージアカウントのプライマリアクセスキー

※ ストレージアカウントは、Microsoft アカウントでサインイン後、Microsoft Azure ホームページ画面左下の「新規」の「データサービス」の「ストレージ」の「簡易作成」から作成します。

※ コンテナは、上記で作成したストレージアカウントをクリックし、Microsoft Azure ホームページ画面上の「コンテナ」の「追加」から作成します。

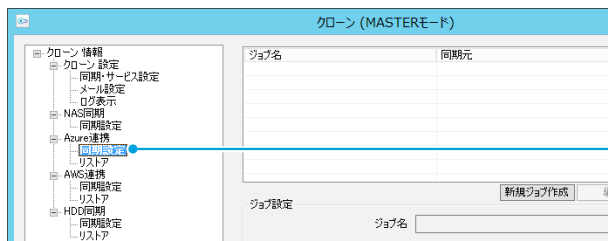
コンテナの「アクセス」方法は、任意にお選びください。

※ プライマリアクセスキーは、上記で作成したストレージアカウントをクリックし、Microsoft Azure ホームページ画面下の「アクセスキーの管理」から確認します。

※ Microsoft Azure についての不明点、通信料金、規約については、Microsoft Azure のホームページにてご確認ください。

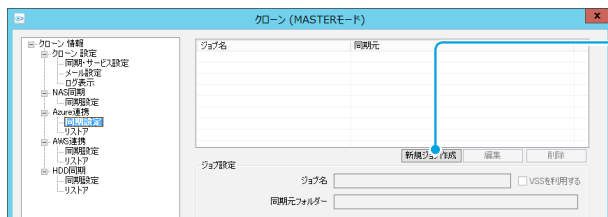
1 クローンを起動する

2



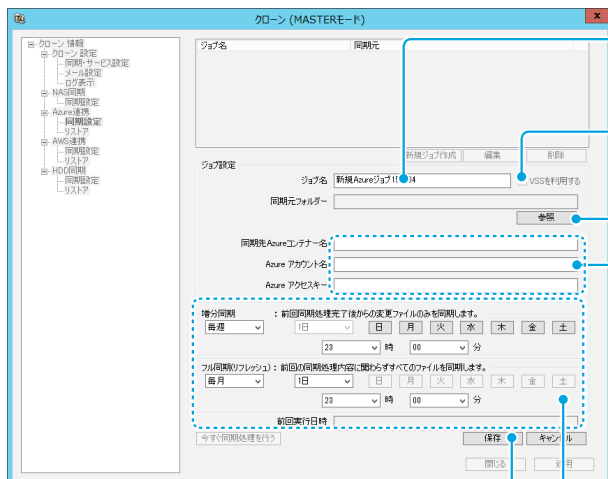
[Azure連携] の[同期設定] をクリック

3



[新規ジョブ作成] をクリック

4



① [ジョブ名] を入力

② VSSを利用する場合は、チェックをつける

※VSSについては、【[VSS \(ボリューム・シャドウコピー・サービス\)](#)】(13 ページ) 参照

③ [参照] をクリックし、同期するフォルダーを選ぶ

④ Microsoft Azureのコンテナー情報を入力

※ [アカウント名] にはストレージアカウントを入力してください。

⑤ スケジュールを設定

毎週	複数の曜日とひとつの時刻を設定
毎月	ひとつの日にちとひとつの時刻を設定

⑥ [保存] をクリック
⇒ジョブが追加されます。

※ Microsoft Azureとの同期の場合、コンテナー単位の同期となるため、複数のジョブから同一のコンテナーを同期先として設定できません。
同期元を変更する場合は、次ページをご覧ください。

クローンは

導入する

同期設定をする

ダウンロードしたら

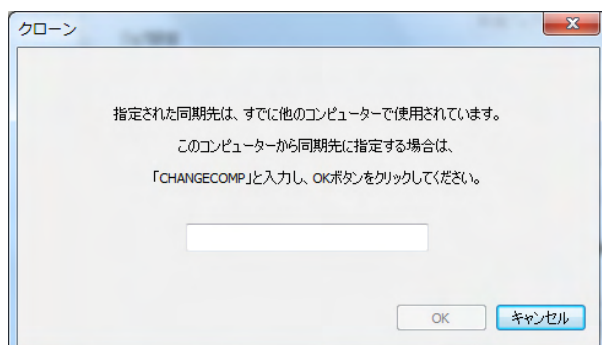
資料

困ったときには

これで同期ジョブが登録されました。

同期元を変更する場合

すでに設定されている同期先を指定した場合は、以下の画面が表示されます。
画面の指示にしたがって同期元を変更することはできますが、次回フル同期がおこなわれ、現在同期先にあるデータはすべて削除されますのでご注意ください。



クローンは

導入する

同期設定をする

ダウンしたら

資料

困ったときには

Amazon S3 と同期する

Amazon S3 とは

Amazon S3は、Amazonが提供するクラウドサービスです。
バケットと呼ばれるプライベートな領域に、簡単にファイルの格納や、取得をすることができます。
Amazon S3に関する詳細は、次のホームページをご覧ください。
→ <http://aws.amazon.com/jp/s3/>

Amazon S3 への同期に関する注意

- アップロード可能なファイルは、1 ファイル5GBまでです。
- Amazon S3上のGlacierストレージクラスには対応していません。
- Amazon S3は保存容量・通信量に応じて課金されます。頻繁に更新されるデータがある場合、請求額が大きくなる場合があります。Amazon S3 ご契約サイトなどで料金を確認しながら運用されることを推奨します。
- プロキシをお使いの場合は、[【同期・サービス設定】\(42ページ\)](#)でプロキシの設定をしてください。
- Amazon S3同期の設定は、マスター/スレーブ間で共有されません。
スレーブをマスターに切り替えた場合、新しいスレーブにAmazon S3同期の設定をし、マスター（元スレーブ）からAmazon S3同期の設定を削除することをおすすめします。
- AWS互換サービスに対応しております。

Amazon S3 の設定を確認する

事前にAmazon S3 (<http://aws.amazon.com/jp/s3/>) にアクセスし、AWSアカウントを作成してください。

アカウント作成後、そのアカウントにてバケットおよびアクセスキーを作成し、以下をメモしてください。

- ・バケット名
- ・作成したアカウントのアクセスキー ID
- ・シークレットキー

※バケット名は、3文字以上63文字以内で作成してください。

※アクセスキーは、「セキュリティ証明書」または「Security Credentials」から作成します。

※アクセスキーIDとシークレットキーについては、そのアカウントでのサインアップ後、Amazon S3 ホームページ画面右上の[アカウント/コンソール]の[セキュリティ証明書]を開いた先の[アクセス証明書]の[アクセスキー]タブをご参照ください。

※Amazon S3についての不明点、通信料金、規約については、Amazon S3のホームページにてご確認ください。

クローンは

導入する

同期設定をする

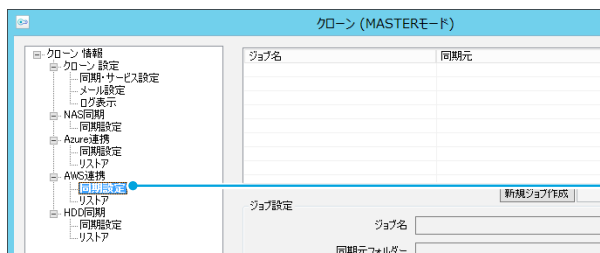
ダウンロードしたら

資料

困ったときには

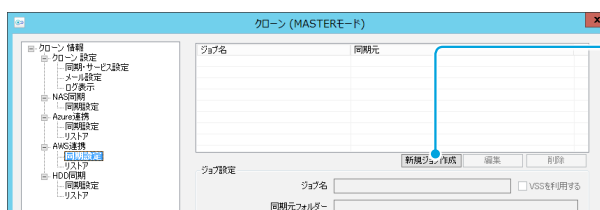
1 クローンを起動する

2



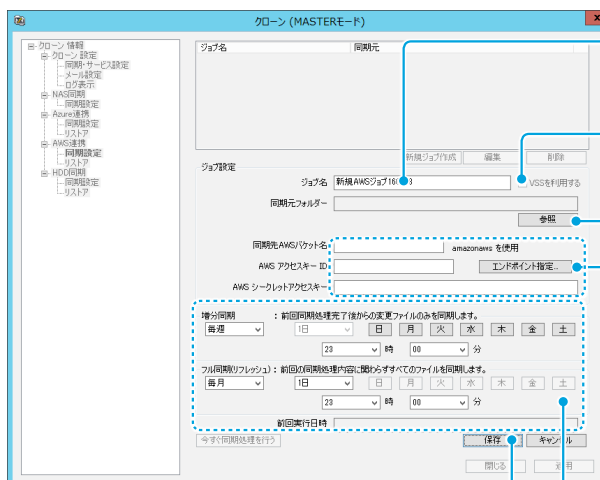
[AWS連携] の[同期設定] をクリック

3



[新規ジョブ作成] をクリック

4



① [ジョブ名] を入力

② VSSを利用する場合は、チェックをつける

※VSSについては、【VSS (ボリューム・シャドウコピー・サービス)】(13 ページ) 参照

③ [参照] をクリックし、同期するフォルダーを選ぶ

④ Amazon S3のアカウント情報を入力

※エンドポイント指定については、次ページをご覧ください。

⑤ スケジュールを設定

毎週	複数の曜日とひとつの時刻を設定
毎月	ひとつの日にちとひとつの時刻を設定

⑥ [保存] をクリック
⇒ジョブが追加されます。

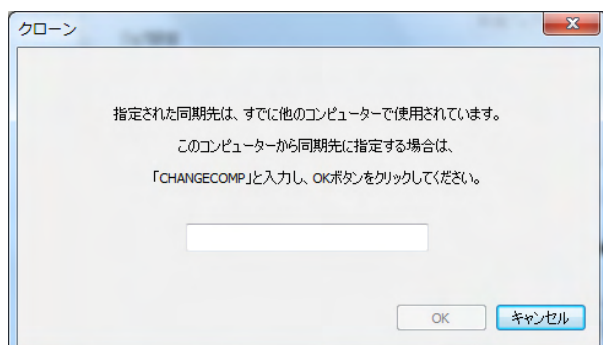
※ Amazon S3との同期の場合、バケット単位の同期となるため、複数のジョブから同一のバケットを同期先として設定できません。
同期元を変更する場合は、次ページをご覧ください。

これで同期ジョブが登録されました。

クローンは
導入する
同期設定をする
ダウンロード
資料
困ったときは

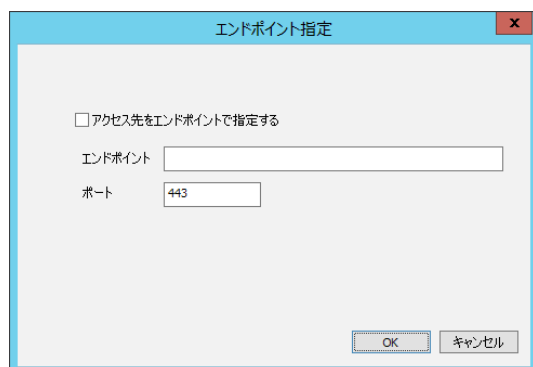
同期元を変更する場合

すでに設定されている同期先を指定した場合は、以下の画面が表示されます。
画面の指示にしたがって同期元を変更することはできますが、次回フル同期がおこなわれ、現在同期先にあるデータはすべて削除されますのでご注意ください。



エンドポイント指定

AWS 互換サービスを使用する場合、[エンドポイント指定] で設定します。
[エンドポイント] と [ポート] を入力し、[アクセス先をエンドポイントで指定する] にチェックをつけます。



クローンは

導入する

同期設定をする

ダウンしたら

資料

困ったときには

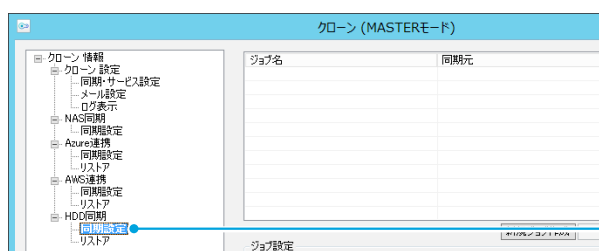
外付けHDD同期

マスター/スレーブのどちら側でも設定できます。事前に同期するLAN DISKに外付けHDDを接続してください。

ネットワーク設定を含む同期をする場合は、マスターにつないでください。

1 クローンを起動する

2



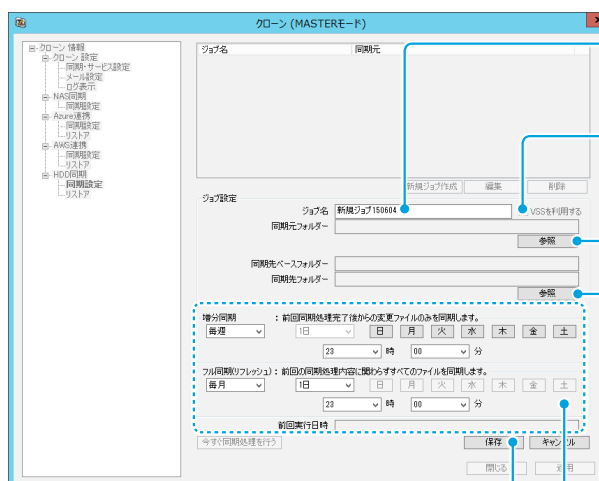
[HDD同期] の[同期設定] をクリック

3



[新規ジョブ作成] をクリック

4



① [ジョブ名] を入力

② VSSを利用する場合は、チェックをつける

※VSSについては、【[VSS \(ボリューム・シャドウコピー・サービス\)](#)】(13 ページ) 参照

③ [参照] をクリックし、同期元のフォルダーを選ぶ

④ [参照] をクリックし、同期先のフォルダーを選ぶ

⑤ スケジュールを設定

毎週	複数の曜日とひとつの時刻を設定
毎月	ひとつの日にちとひとつの時刻を設定

⑥ [保存] をクリック
⇒ジョブが追加されます。

これで同期ジョブが登録されました。

Windows Server 2003 から移行する

Windows Server 2003を「マスター」、マスター予定機を「スレーブ」として、[【マスター/スレーブ間同期】 \(14ページ\)](#)を参考に設定してください。

クローンは
は

導入する

同期設定をする

ダウンしたら

資料

困ったときには

お使いのLAN DISKがダウンしたら

ワークグループ環境でマスターがダウンした場合	30
Active Directory環境でマスターがダウンした場合	32
スレーブがダウンした場合	34
クラウドストレージからの復旧	35
外付けHDDからの復旧	38

クローンはシステムの初期化には対応しておりません。

LAN DISKのシステムの初期化方法は、管理マニュアルをご確認ください。

クローンは

導入する

同期設定をする

ダウンしたら

資料

困ったときには

ワークグループ環境でマスターがダウンした場合

マスター機がダウンした場合、スレーブ機を「マスターに昇格」して対応します。

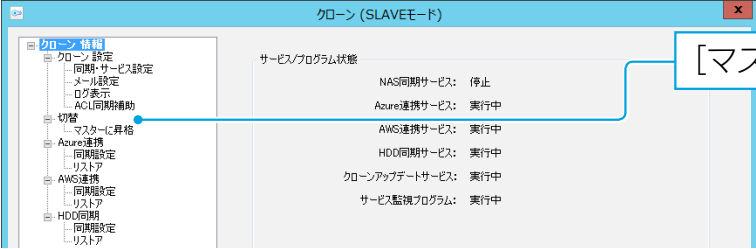
[マスターに昇格] を実行する前に
 マスターとスレーブのドライブ構成をあわせてから実行してください。

マスター機の操作

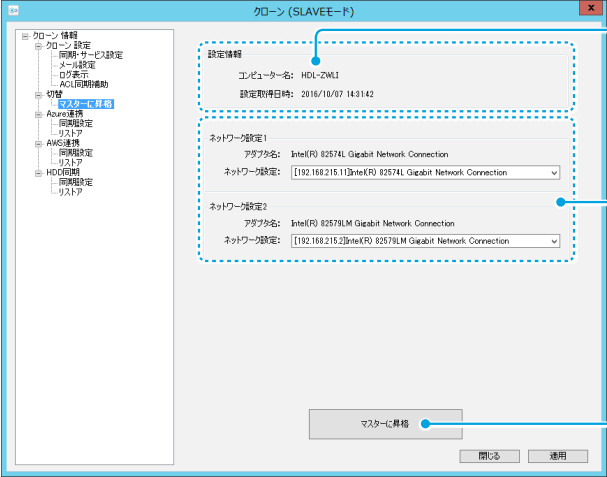
- 1 マスター機の電源が入っている場合はシャットダウンし、ネットワークから取り外す
 ※ 修理の必要がある場合は、マスター機を修理に出します。

スレーブ機の操作(この手順でマスター機になります)

- 2 クローンを起動する

- 3 

[マスターに昇格] をクリック

- 4 

① 設定情報を確認する

② 各LANポートに反映されるネットワーク設定を確認する

③ [マスターに昇格] をクリック ⇒ スレーブ機にマスター機の設定がされ、マスター機になります。クローンもマスター機用になります。

- 5 ユーザーのパスワードがユーザー名と同じになっているので、設定し直す
 ※ すでに同一ユーザーが登録されている場合、パスワードは変更されません。
 ※ 日本語ユーザー名をご利用の場合は、必ず管理者権限でパスワードをリセットしてください。

- 6 共有のアクセス権がリセットされているので、設定し直す

クローンは
 導入する
 同期設定をする
 ダウンしたら
 資料
 困ったときには

旧マスター機の操作(この手順によりスレーブ機になります)

- 7 旧マスター機の修理が終わったり、スペアのLAN DISKがある場合は、それらの設定をスレーブ機のものにする
※【[マスター/スレーブ間同期](#)】(14ページ)の手順1参照
- 8 クローンのスレーブ版をインストールする
- 9 ネットワークにつなぐ
※ 次の同期時刻まで時間がある場合は、マスター機で手動フル同期をすることをおすすめします。
([今すぐ同期処理を行う]をクリック)

これで復旧は完了です。

マスター機にインストールしていたソフトウェアについて

復元前にマスター機にインストールされていたソフトウェア(UP管理ソフト、セキュリティソフト等)は復元されませんので、必要に応じて再インストールしてください。

クラウドストレージや外付けHDDに設定していたジョブについて

スレーブ時点で設定したクラウドストレージや外付けHDDのジョブは、[マスターに昇格]時に削除されます。必要に応じて設定し直してください。

クローンは

導入する

同期設定をする

ダウンしたら

資料

困ったときには

Active Directory環境でマスターがダウンした場合

Active Directory環境でマスター機がダウンした場合、スレーブ機を「マスターに昇格」して対応します。

Active Directory環境でご利用の場合

- スレーブをマスターに昇格させる際、再起動が3回必要です。これはスレーブのマスター昇格の際DNSを書き換える必要があるためです。

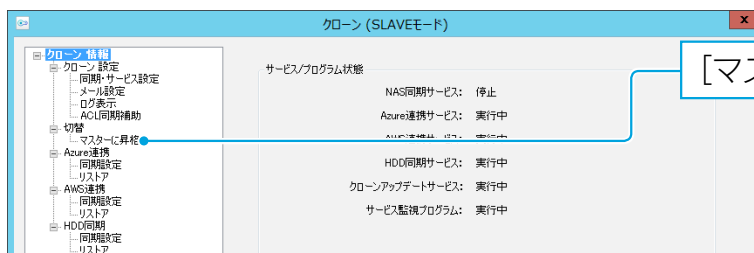
マスター機の操作

- 1 マスター機の電源が入っている場合はシャットダウンし、ネットワークから取り外す
※修理の必要がある場合は、マスター機を修理に出します。

スレーブ機の操作(この手順でマスター機になります)

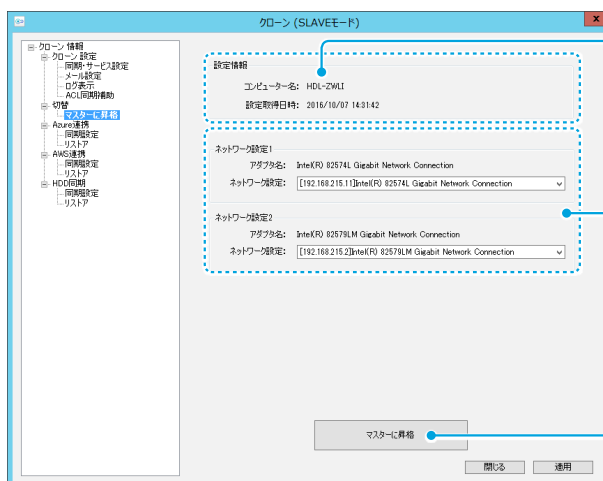
- 2 クローンを起動する

- 3



[マスターに昇格] をクリック

- 4



① 設定情報を確認する

② 各LANポートに反映されるネットワーク設定を確認する

③ [マスターに昇格] をクリック
⇒スレーブ機にマスター機の設定がされ、マスター機になります。クローンもマスター機用になります。

- 5 再起動を求められたら、再起動する

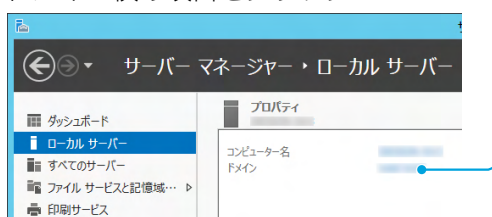
- 6 再起動したら、新マスター機(元スレーブ機)にログオンする

※出荷時設定のユーザー名/パスワードでログオンできない場合は、マスターに設定したユーザー名/パスワードを入力します。

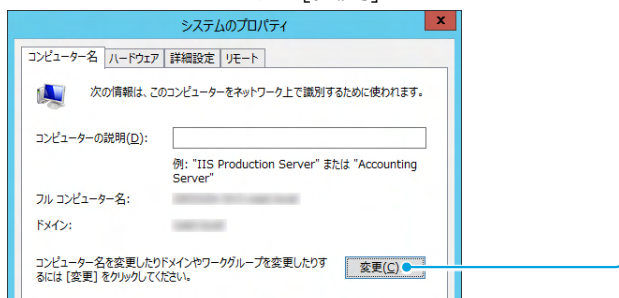
7 新マスター機をいったんワークグループに設定する

ドメインの設定方法

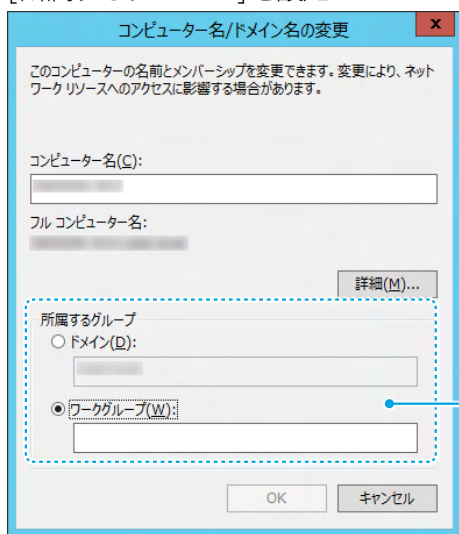
- ① [サーバーマネージャー] の [ダッシュボード] → [ローカルサーバー] を開く
- ② ドメイン横の項目をクリック



- ③ システムのプロパティで [変更] をクリック



- ④ [所属するグループ] を設定



8 新マスター機を再起動する

9 新マスター機を再度 Active Directory に設定し直す

※ 上記【ドメインの設定方法】をご確認ください。

10 新マスター機を再起動する

このあと、[31 ページ](#)の手順7以降を参照ください。

旧マスター機を修理後、スレーブ機として再利用する場合

いったんワークグループに設定し、コンピューター名等を変更してから、Active Directory に設定し直してください。(上記【ドメインの設定方法】を参照)

クローンとは

導入する

同期設定をする

ダウンしたら

資料

困ったときには

スレーブがダウンした場合

スレーブ機がダウンした場合、スレーブ機を取り外して対処します。

スレーブ機の操作

- 1 スレーブ機の電源が入っている場合はシャットダウンし、ネットワークから取り外す
※ 修理の必要がある場合は、スレーブ機を修理に出します。

スレーブ機の修理が終わったら…

- 2 スレーブ機の修理が終わったり、スペアのLAN DISKがある場合は、それらの設定をスレーブ機のものにする
※ [【マスター/スレーブ間同期】\(14ページ\)](#)の手順1 参照
- 3 クローンのスレーブ版をインストールする
- 4 ネットワークにつなぐ

これで復旧は完了です。

※修理後初回の同期は[フル同期]を実行してください。

クローンとは

導入する

同期設定をする

ダウンしたら

資料

困ったときには

クラウドストレージからの復旧

マスター/スレーブともダウンしてしまった場合など、クラウドストレージに同期したデータから復旧できます。

すでにリストア先フォルダーにあるファイルについて

クラウドストレージから復旧する場合、指定したフォルダーへの同期されていたファイルの復元のみをおこないます。このため、リストア前にリストア先のフォルダーにファイルが存在しても削除されません。ただし、同名ファイルは上書きされます。

クローンとは

導入する

同期設定をする

ダウンしたら

資料

困ったときには


Microsoft Azure から復旧する

- LAN DISK の修理が終わったり、スペアの LAN DISK がある場合は、それらの設定をマスター機のものにする
※【[マスター/スレーブ間同期](#)】(14ページ)の手順1 参照
※ユーザー、グループも設定しなおしてください。

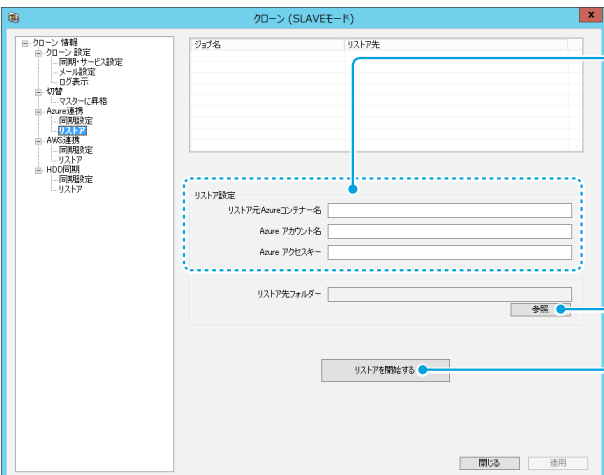
- マスター機用クローンをインストールする

- ネットワークにつなぐ

- クローンを起動する

- 

[Azure連携] の[リストア] をクリック

- 

① Microsoft Azure のコンテナ情報を入力

② [参照] をクリックし、復旧先のフォルダーを選ぶ

③ [リストアを開始する] をクリック ⇒ データが復旧されます。

Amazon S3 から復旧する

クローンとは

導入する

同期設定をする

ダウンしたら

資料

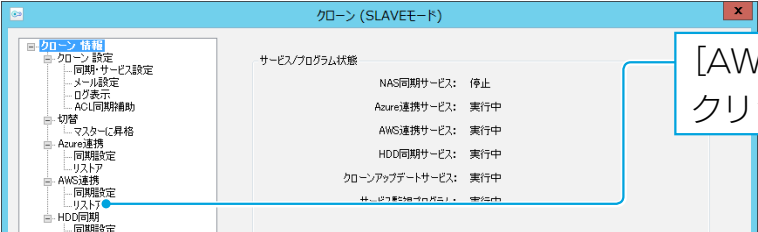
困ったときには

- LAN DISK の修理が終わったり、スペアのLAN DISKがある場合は、それらの設定をマスター機のものにする
 ※【[マスター/スレーブ間同期](#)】(14ページ)の手順1参照
 ※ユーザー、グループも設定しなおしてください。

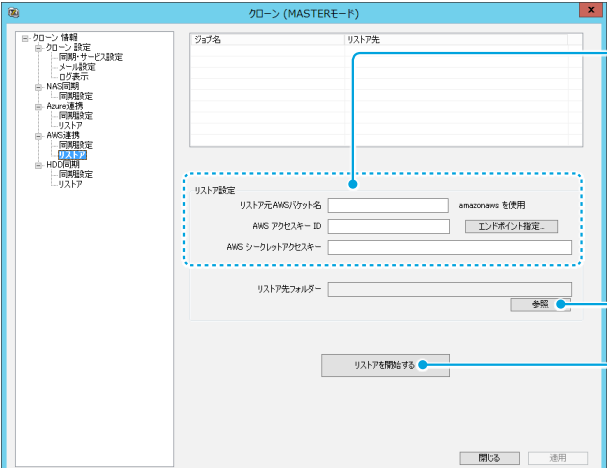
- マスター機用クローンをインストールする

- ネットワークにつなぐ

- クローンを起動する

- 

[AWS連携] の[リストア] をクリック

- 

① Amazon S3のアカウント情報を入力

② [参照] をクリックし、復旧先のフォルダーを選ぶ

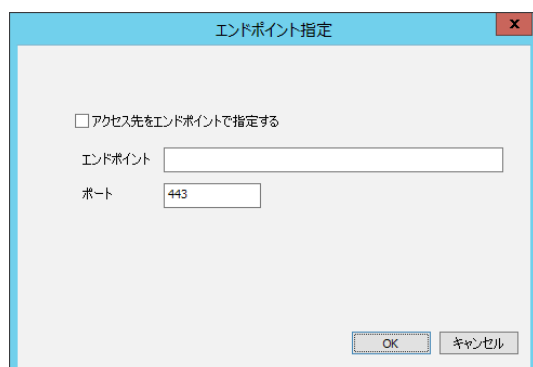
※エンドポイント指定については、次ページをご覧ください。

③ [リストアを開始する] をクリック ⇒ データが復旧されます。

エンドポイント指定

AWS互換サービスを使用する場合、[エンドポイント指定]で設定します。

[エンドポイント]と[ポート]を入力し、[アクセス先をエンドポイントで指定する]にチェックをつけます。



エンドポイント指定

アクセス先をエンドポイントで指定する

エンドポイント

ポート

OK キャンセル

クローンは

導入する

同期設定をする

ダウンロードしたら

資料

困ったときには

外付けHDDからの復旧

マスター/スレーブともダウンしてしまった場合など、外付けHDDに同期したデータから復旧できます。

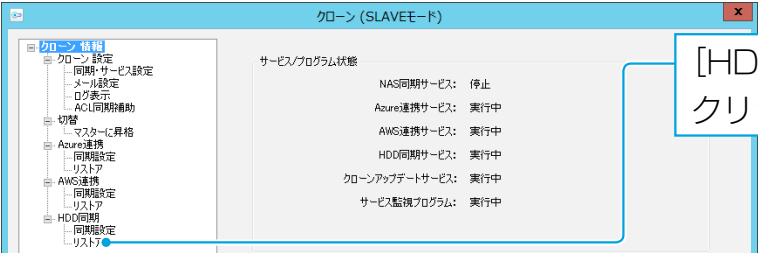
外付けHDDから復旧する

- 1 LAN DISKの修理が終わったり、スペアのLAN DISKがある場合は、それらの設定をマスター機のものにする
 ※【[マスター/スレーブ間同期](#)】(14ページ)の手順1参照
 ※ユーザー、グループも設定しなおしてください。

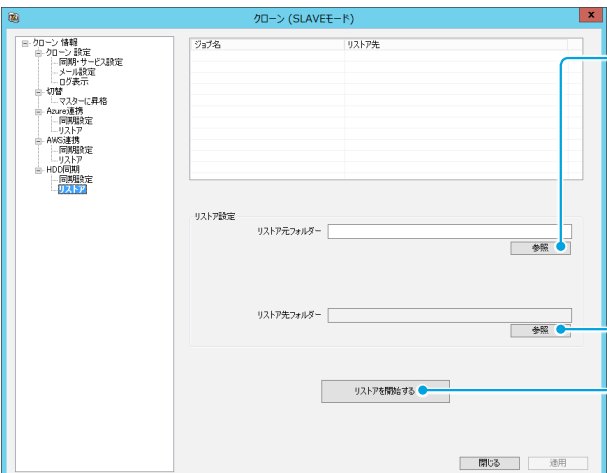
- 2 マスター機用クローンをインストールする

- 3 同期した外付けHDDをつなぐ

- 4 クローンを起動する

- 5 

[HDD同期] の[リストア] をクリック

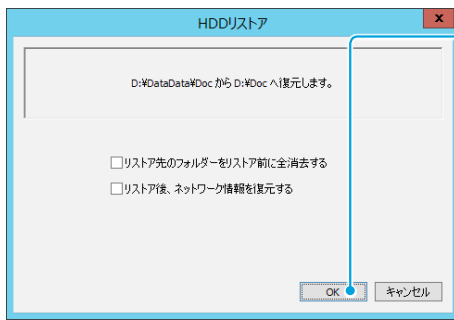
- 6 

① [リストア元フォルダー] の[参照] クリックし、復旧元のフォルダーを選ぶ

② [リストア先フォルダー] の[参照] クリックし、復旧先のフォルダーを選ぶ

③ [リストアを開始する] をクリック ⇒ データが復旧されます。

7



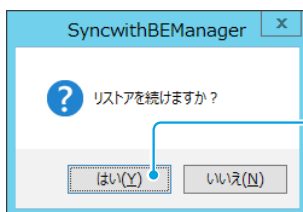
[OK] をクリック

[リストア先のフォルダーをリストア前に全消去する] にチェックをつけると
 リストア先に指定したフォルダー以下を全消去した後、リストアを開始します。

[リストア後、ネットワーク情報を復元する] にチェックをつけると
 リストア後、同期されているネットワーク情報を復元します。

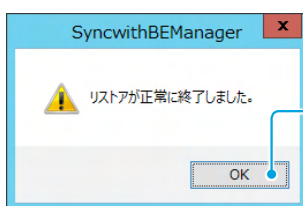
- 復元されるネットワーク情報
 - コンピューター名
 - ドメイン名(またはワークグループ)
 - IPアドレス
 - ユーザー情報
 - グループ情報
 - 共有フォルダー情報

8



[はい] をクリック
 ※ リストアを開始します。

9



[OK] をクリック

クローンとは

導入する

同期設定をする

ダウンしたら

資料

困ったときには

[ソフトウェア詳細](#) 41

[ログ表示](#) 55

クローンとは

導入する

同期設定をする

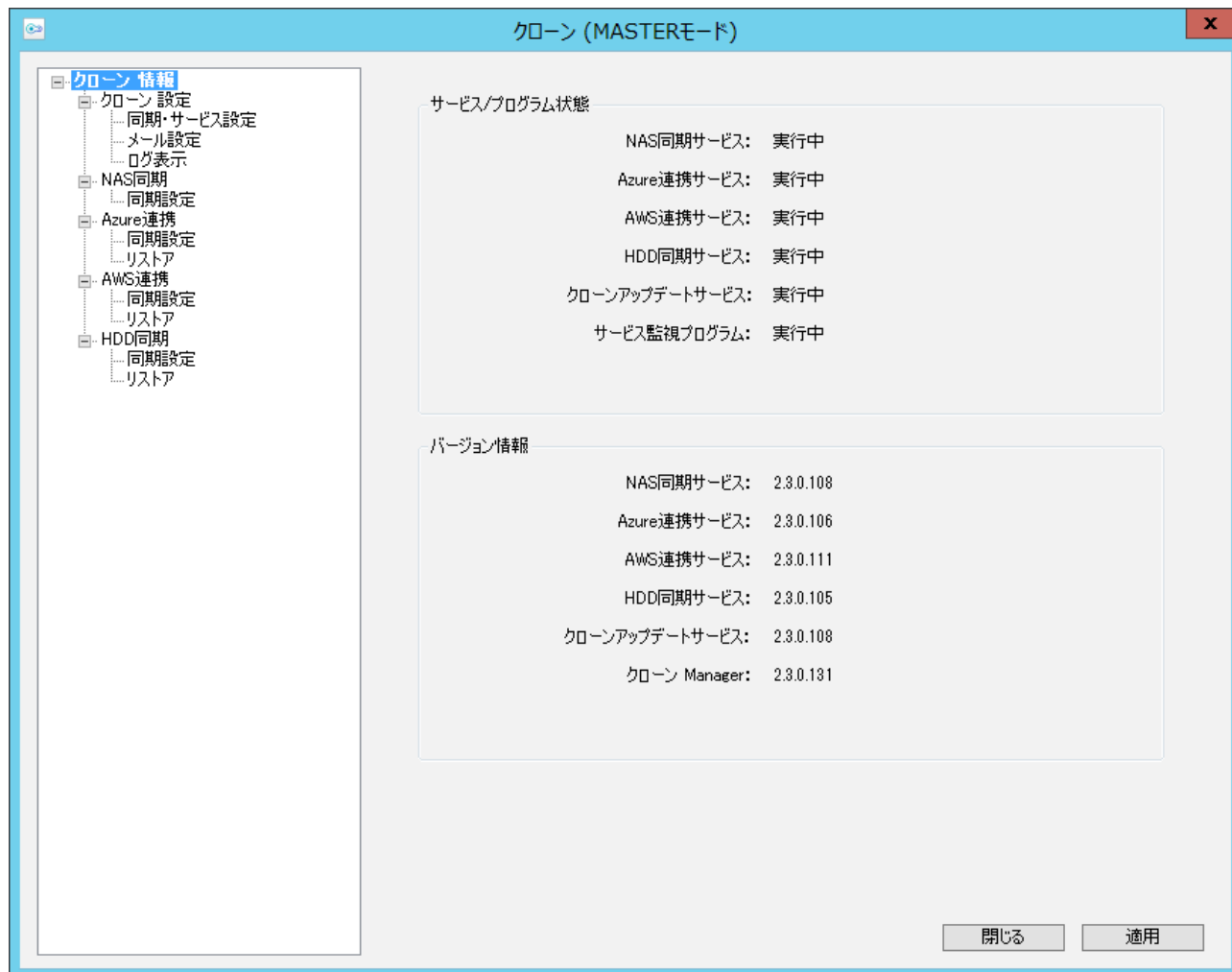
ダウンしたら

資料

困ったときには

ソフトウェア詳細

クローン 情報



クローンとは

導入する

同期設定をする

ダウンしたら

資料

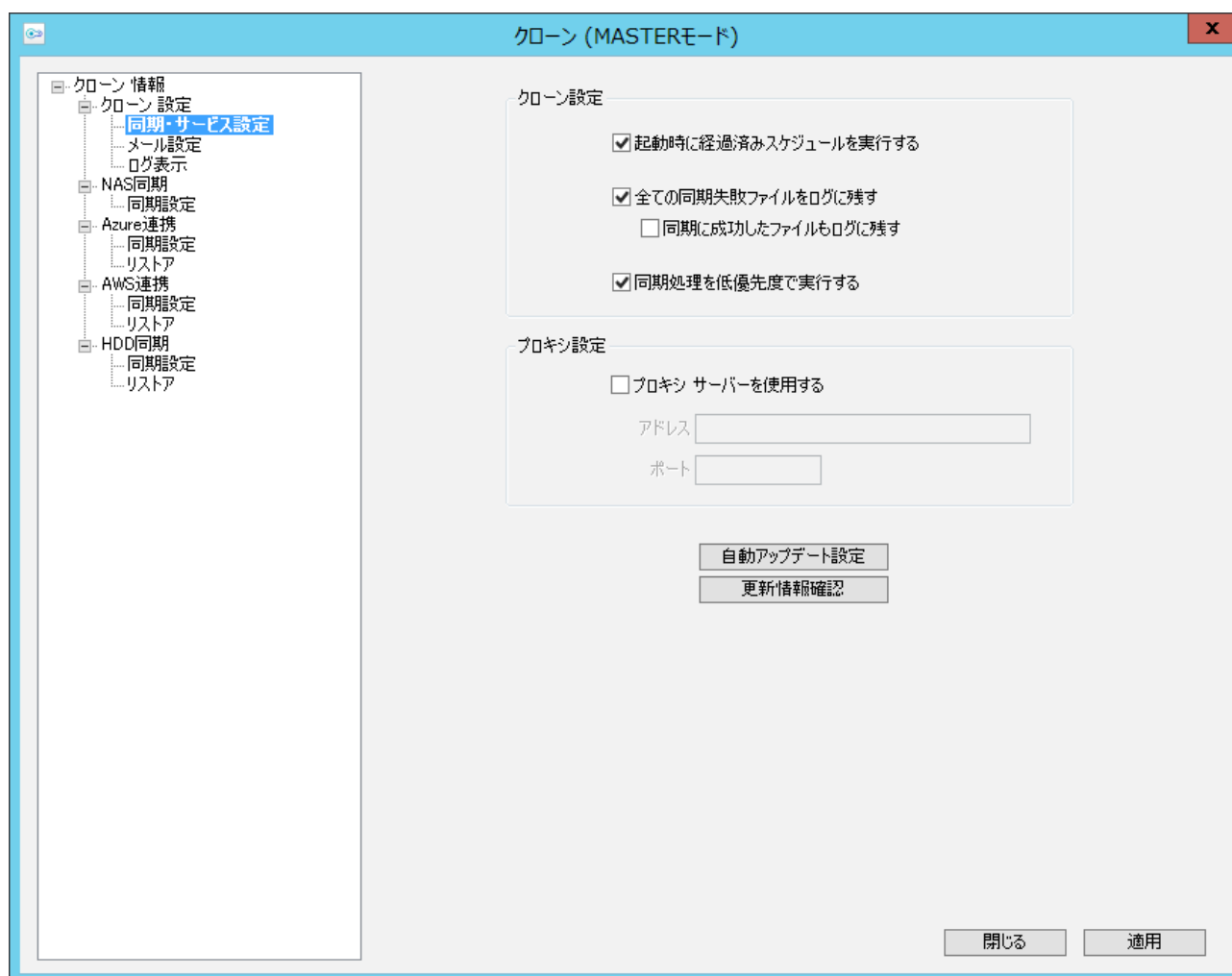
困ったときには

項目名	説明	クローン			
		M	M2003	S	
サービス/プログラム 状態	サービスの状態を表示します。 スレーブはNAS同期サービスは[停止中]と表示されますが、問題はありません。				
	実行中				
	停止				
	一時停止				
	開始中				
	停止中				
	一時停止中				
	再開中				
	取得失敗	サービス情報が取得できなかった (サービスがインストールされてない等)			
	バージョン 情報	クローンのバージョンを表示します。	○	○	○

M：マスター機用/M2003:Windows Server 2003用/S：スレーブ機用

※Master2003は、クラウドストレージ同期サービスに対応していません。

同期・サービス設定



クローンは

導入する

同期設定をする

ダウンしたら

資料

困ったときには

項目名	説明	クローン		
		M	M2003	S
クローン設定	クローンの動作を設定します。 変更の反映には、Windowsの再起動が必要です。	○	○	○
起動時に経過済みスケジュールを実行する	チェックすると、クローン起動時に、実施予定時刻を経過しているスケジュールを実行します。	○	○	○
全ての同期失敗ファイルをログに残す	チェックすると、同期に失敗したファイルを、すべてログに記録します。 ※同期に成功したファイルもログに残す： 同期に成功したファイルについても、ログに記録します。	○	○	○
同期を低優先度で実行する	チェックすると、CPU優先度を低優先度で同期処理します。 (チェックを外すと、通常優先度で同期処理します。)	○	○	○
プロキシ設定	チェックすると、Azure/AWS同期/リストア、クローンのアップデート時の接続にプロキシサーバーを使います。 アドレスとポートについては、ネットワーク管理者にご確認ください。	○	○	○
自動アップデート設定	クローンの自動アップデートの設定をおこないます。スレーブは、マスターの自動アップデートが有効になっている場合に、自動アップデートされます。	○	○	-
更新情報確認	手でクローンのアップデートをおこないます。	○	○	○

M：マスター機用/M2003:Windows Server 2003用/S：スレーブ機用

メール設定

クローン (MASTERモード)
✕

- クローン 情報
- クローン 設定
 - 同期・サービス設定
 - メール設定
 - ログ表示
- NAS同期
 - 同期設定
- Azure連携
 - 同期設定
 - リストア
- AWS連携
 - 同期設定
 - リストア
- HDD同期
 - 同期設定
 - リストア

メール通知機能を有効にする
 テストメール送信

送信サーバー設定

送信サーバー(SMTP)

SMTPポート

認証設定

認証方式 認証なし

認証ユーザー名

認証パスワード

受信サーバー(POP3)

POP3ポート

POP3承認待ち時間(ms)

メールアドレス設定

通知先メールアドレス

通知元メールアドレス

同期正常終了時にもメール通知する

閉じる
適用

項目名	説明	クローン		
		M	M2003	S
メール通知機能を有効にする	チェックすると、イベント発生時にメール通知するようになります。	○	○	○
テストメール送信	設定した内容でテストメールを送信します。	○	○	○
送信サーバー設定	送信サーバーに関する設定をします。	○	○	○
認証設定	認証に関する設定をします。	○	○	○
メールアドレス設定	通知するメールアドレスと、その際に送信元となるメールアドレスを設定します。 ※ 同期正常終了時にもメール通知する： 同期が正常に終了した場合にもメールで通知します。	○	○	○

M : マスター機用 / M2003: Windows Server 2003用 / S : スレーブ機用

▶ [メール設定をする](#)

10

クローンは

導入する

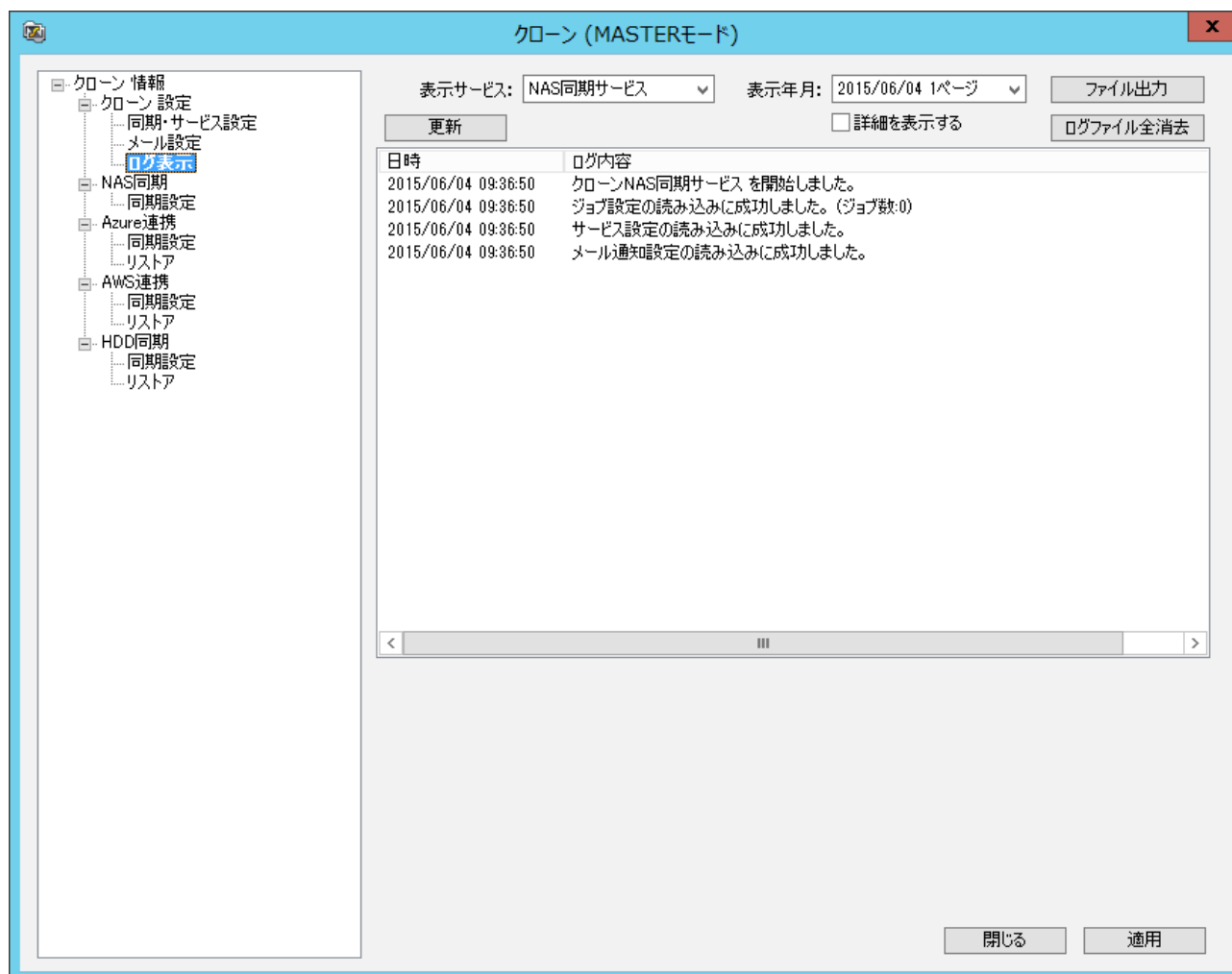
同期設定をする

ダウンしたら

資料

困ったときには

ログ表示



クローンは

導入する

同期設定をする

ダウンしたら

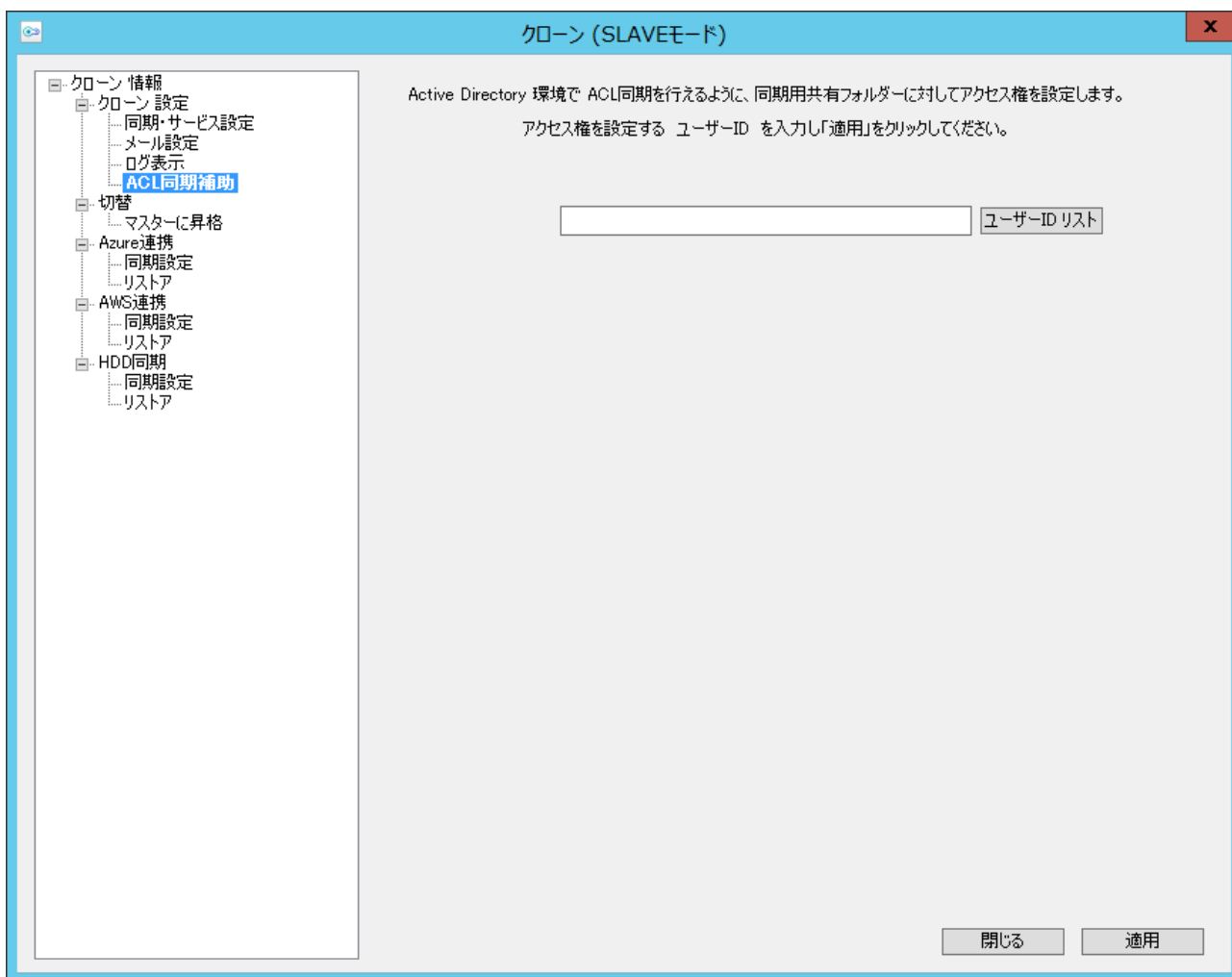
資料

困ったときには

項目名	説明	クローン		
		M	M2003	S
表示サービス	マスター/スレーブ同期と Azure 同期のログ表示を切り替えます。	○	○	○
表示年月	ログ表示する日付を切り替えます。	○	○	○
ファイル出力	タブ区切りテキストファイルで、ログを出力します。	○	○	○
更新	ログの内容を更新します。	○	○	○
詳細を表示する	各同期の成功・失敗ファイル一覧を表示します。	○	○	○
ログ全消去	ログをすべて削除します。	○	○	○
一覧	ログを一覧表示します。ログファイルは 31 日間保存されます。 ※ログの内容については、 【ログ表示】(55ページ) をご覧ください。	○	○	○

M : マスター機用 / M2003: Windows Server 2003用 / S : スレーブ機用

ACL 同期補助 (スレーブのみ)



クローンは

導入する

同期設定をする

ダウンしたら

資料

困ったときには

項目名	説明	クローン		
		M	M2003	S
ユーザー ID リスト	ACL同期設定が可能なユーザーを選びます。 ユーザーを指定すると、NAS同期の[ACL情報もコピー]にチェック可能になります。 Administrator権限を持ち、パスワード期限が無制限のユーザーのみ表示されます。	-	-	○

M : マスター機用 / M2003: Windows Server 2003用 / S : スレーブ機用

NAS同期 - 同期設定 (マスターのみ)

クローン (MASTERモード)
×

- クローン 情報
- クローン 設定
 - 同期・サービス設定
 - メール設定
 - ログ表示
- NAS同期
 - 同期設定
- Azure連携
 - 同期設定
 - リストア
- AWS連携
 - 同期設定
 - リストア
- HDD同期
 - 同期設定
 - リストア

ジョブ名	同期元

新規ジョブ作成
編集
削除

ジョブ設定

ジョブ名 VSSを利用する

同期元フォルダー

同期先コンピューター名 同期先ドライブレター

同期先共有名 同期先接続確認

同期先ログインユーザー ACL情報もコピー

同期先ログインパスワード

増分同期 : 前回同期処理完了後からの変更ファイルのみを同期します。

日 月 火 水 木 金 土

時 分

フル同期(リフレッシュ) : 前回の同期処理内容に関わらずすべてのファイルを同期します。

日 月 火 水 木 金 土

時 分

前回実行日時

今すぐ同期処理を行う

閉じる
適用

クローンは

導入する

同期設定をする

ダウンしたら

資料

困ったときには

項目名	説明	クローン		
		M	M2003	S
ジョブ名・同期元	作成した同期一覧を表示します。	○	○	○ ^{*2}
新規ジョブ作成	ジョブを新規作成し、設定します。	○	○	○ ^{*2}
編集	選んだジョブを編集します。	○	○	○ ^{*2}
削除	選んだジョブを削除します。	○	○	○ ^{*2}
ジョブ名	ジョブの名前を設定します。	○	○	○ ^{*2}
VSSを利用する	チェックをつけると、同期開始時にVSSスナップショットをおこない、同期にVSSスナップショットを使用します。	○	○	○ ^{*2}
同期元フォルダー	マスターの同期する共有フォルダーを設定します。	○	○	○ ^{*2}
同期先コンピューター名	スレーブのコンピューター名を入力します。	○	○	○ ^{*2}
同期先フォルダー	スレーブの保存先が表示されます。(自動入力)	○	○	○ ^{*2}
同期先ログインユーザー	スレーブのログインに使用するユーザー名を入力します。	○	○	○ ^{*2}
ACL情報もコピー	チェックをつけると、ACL情報の同期もおこないます。スレーブのクローンのACL補助設定(【ACL同期補助(スレーブのみ)】(45ページ))で、ACL同期に使用するIDが設定されている場合のみチェック可能になります。	○	○	○ ^{*2}
増分同期	増分同期のスケジュールを設定します。 ^{*1}	○	○	○ ^{*2}
フル同期	フル同期のスケジュールを設定します。 ^{*1}	○	○	○ ^{*2}
前回実行日時	直近で同期した日時を表示します。	○	○	○ ^{*2}

項目名	説明	クローン		
		M	M2003	S
今すぐ同期処理を行う / 同期中止	設定した内容で同期します。フル同期と増分同期を選ぶことができます。実行中の場合は、[同期中止]と表示され、クリックすると中止します。	○	○	○ ^{※2}

M：マスター機用/M2003:Windows Server 2003用/S：スレーブ機用

※1 最新の同期データに上書きされます。同期の履歴は残りません。

※2 確認のみです。設定はできません。

[▶マスター/スレーブ間同期](#)

14

ク
ロ
ー
ン
と
は

導
入
す
る

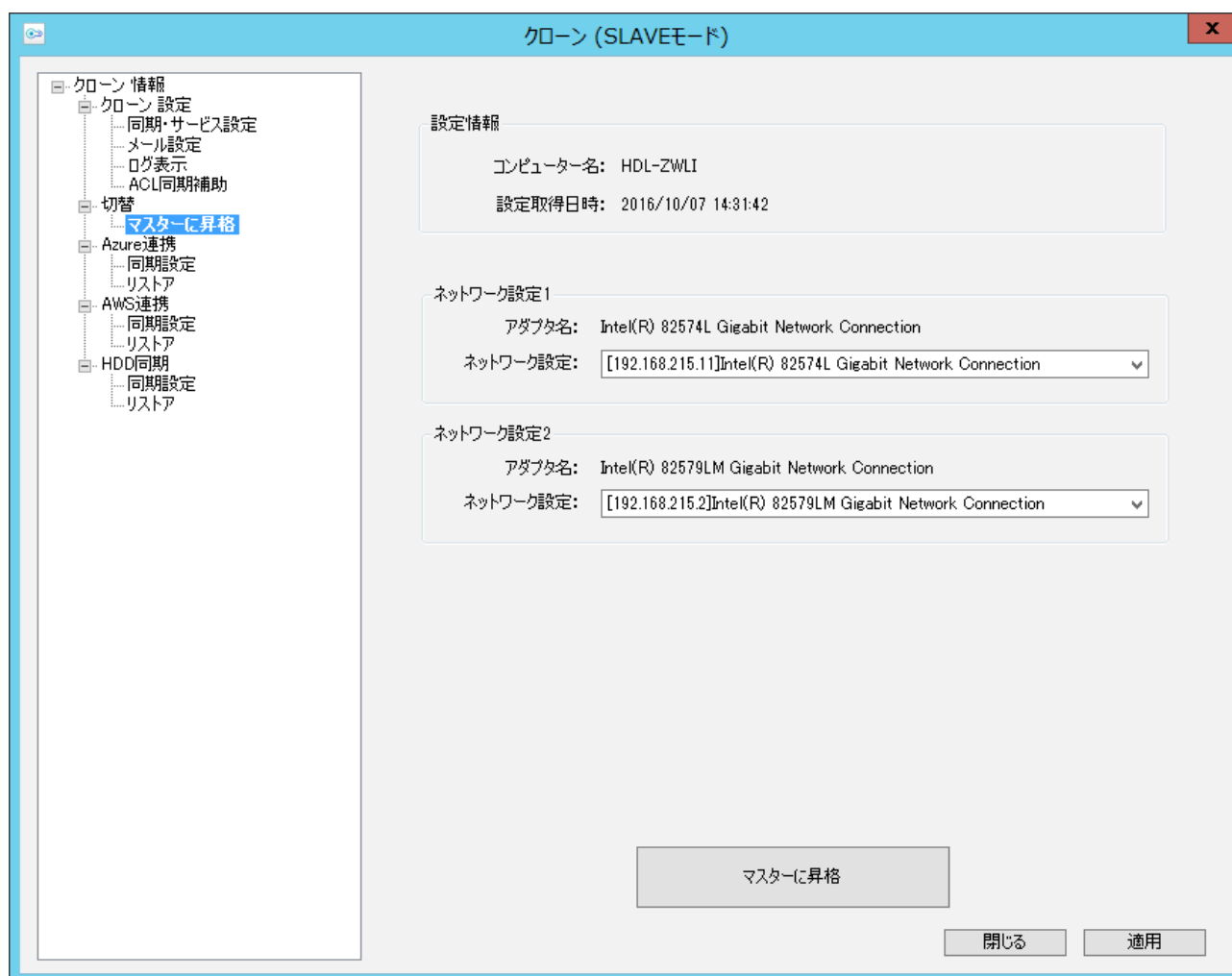
同
期
設
定
を
す
る

ダ
ウ
ン
し
た
ら

資
料

困
っ
た
と
き
に
は

切替 - マスターに昇格 (スレーブのみ)



クローンは

導入する

同期設定をする

ダウンしたら

資料

困ったときには

項目名	説明	クローン		
		M	M2003	S
設定情報	マスター機のコンピューター名と設定情報を取得した日時を表示します。	-	-	○
ネットワーク設定x ※xはLANポート の番号	マスター機のネットワーク設定をどちらのLANポートに割り振るか設定します。 ネットワーク設定xがLANポートxになります。 例) ネットワーク設定2がLANポート2	-	-	○
マスターに昇格	スレーブをマスターに切り替えます。	-	-	○

M : マスター機用 / M2003: Windows Server 2003用 / S : スレーブ機用

▶ [ワークグループ環境でマスターがダウンした場合](#)

30

Azure 連携 - 同期設定

クローン (MASTERモード)
X

- クローン 情報
- クローン 設定
 - 同期・サービス設定
 - メール設定
 - ログ表示
- NAS同期
 - 同期設定
- Azure連携
 - 同期設定
 - リストア
- AWS連携
 - 同期設定
 - リストア
- HDD同期
 - 同期設定
 - リストア

ジョブ名	同期元

新規ジョブ作成
編集
削除

ジョブ設定

ジョブ名 VSSを利用する

同期元フォルダー

同期先Azureコンテナ名

Azure アカウント名

Azure アクセスキー

増分同期 : 前回同期処理完了後からの変更ファイルのみを同期します。

日 月 火 水 木 金 土

時 分

フル同期(リフレッシュ) : 前回の同期処理内容に関わらずすべてのファイルを同期します。

日 月 火 水 木 金 土

時 分

前回実行日時

今すぐ同期処理を行う

閉じる
適用

クローンは

導入する

同期設定をする

ダウンしたら

資料

困ったときには

項目名	説明	クローン		
		M	M2003	S
ジョブ名・同期元	作成した同期一覧を表示します。	○	○	○
新規ジョブ作成	ジョブを新規作成し、設定します。	○	○	○
編集	選んだジョブを編集します。	○	○	○
削除	選んだジョブを削除します。	○	○	○
ジョブ名	ジョブの名前を設定します。	○	○	○
同期元フォルダー	マスターの同期する共有フォルダーを設定します。	○	○	○
同期先Azureコンテナ名	同期先Microsoft Azureのコンテナ名を入力します。	○	○	○
Azureアカウント名	同期先Microsoft Azureのアカウント名を入力します。	○	○	○
Azureアクセスキー	同期先Microsoft Azureのアクセスキーを入力します。	○	○	○
増分同期	増分同期のスケジュールを設定します。 [*]	○	○	○
フル同期	フル同期のスケジュールを設定します。 [*]	○	○	○
前回実行日時	直近で同期した日時を表示します。	○	○	○
今すぐ同期処理を行う / 同期中止	設定した内容で同期します。フル同期と増分同期を選ぶことができます。実行中の場合は、[同期中止]と表示され、クリックすると中止します。	○	○	○

M : マスター機用 / M2003: Windows Server 2003用 / S : スレーブ機用

※同期の履歴は残りません。

Azure 連携 - リストア

クローン (MASTERモード) ✕

- クローン 情報
- クローン 設定
 - 同期・サービス設定
 - メール設定
 - ログ表示
- NAS同期
 - 同期設定
- Azure連携
 - 同期設定
 - リストア**
- AWS連携
 - 同期設定
 - リストア
- HDD同期
 - 同期設定
 - リストア

ジョブ名	リストア先

リストア設定

リストア元Azureコンテナ名

Azure アカウント名

Azure アクセスキー

リストア先フォルダー

クローンは

導入する

同期設定をする

ダウンロードしたら

資料

困ったときには

項目名	説明	クローン		
		M	M2003	S
ジョブ名・同期元	作成した同期一覧を表示します。	○	-	○
リストア元Azureコンテナ名	リストア元に使っていたMicrosoft Azureのコンテナ名を入力します。	○	-	○
Azureアカウント名	Microsoft Azureのアカウントを入力します。	○	-	○
Azureアクセスキー	コンテナのアクセスキーを入力します。	○	-	○
リストア先フォルダー	リストア先のフォルダーを設定します。	○	-	○
リストアを開始する	Microsoft Azureからのリストアを開始します。	○	-	○

M: マスター機用/M2003:Windows Server 2003用/S: スレーブ機用

▶ [Microsoft Azureから復旧する](#)

35

AWS 連携 - 同期設定

クローン (MASTERモード)
✕

- クローン 情報
- クローン 設定
 - 同期・サービス設定
 - メール設定
 - ログ表示
- NAS同期
 - 同期設定
- Azure連携
 - 同期設定
 - リストア
- AWS連携
 - 同期設定**
 - リストア
- HDD同期
 - 同期設定
 - リストア

ジョブ名	同期元

新規ジョブ作成 編集 削除

ジョブ設定

ジョブ名 VSSを利用する

同期元フォルダー

同期先AWSバケット名

AWS アクセスキー ID エンドポイント指定...

AWS シークレットアクセスキー

増分同期 : 前回同期処理完了後からの変更ファイルのみを同期します。

日 月 火 水 木 金 土

時 分

フル同期(リフレッシュ) : 前回の同期処理内容に関わらずすべてのファイルを同期します。

日 月 火 水 木 金 土

時 分

前回実行日時

今すぐ同期処理を行う

閉じる 適用

クローンは

導入する

同期設定をする

ダウンしたら

資料

困ったときには

項目名	説明	クローン		
		M	M2003	S
ジョブ名・同期元	作成した同期一覧を表示します。	○	○	○
新規ジョブ作成	ジョブを新規作成し、設定します。	○	○	○
編集	選んだジョブを編集します。	○	○	○
削除	選んだジョブを削除します。	○	○	○
ジョブ名	ジョブの名前を設定します。	○	○	○
同期元フォルダー	マスターの同期する共有フォルダーを設定します。	○	○	○
同期先AWSバケット名	同期先Amazon S3のバケット名を入力します。 (同期先として使用可能なバケットは、すでに存在しているバケットである必要があります。)	○	○	○
AWSアクセスキーID	同期先Amazon S3のアカウントキーを入力する。	○	○	○
エンドポイント指定	AWS互換サービスを使用する場合のエンドポイントを指定します。	○	○	○
AWSシークレットアクセスキー	同期先Amazon S3のシークレットアクセスキーを入力します。	○	○	○
増分同期	増分同期のスケジュールを設定します。*	○	○	○
フル同期	フル同期のスケジュールを設定します。*	○	○	○
前回実行日時	直近で同期した日時を表示します。	○	○	○
今すぐ同期処理を行う / 同期中止	設定した内容で同期します。フル同期と増分同期を選ぶことができます。実行中の場合は、[同期中止]と表示され、クリックすると中止します。	○	○	○

M : マスター機用 / M2003: Windows Server 2003用 / S : スレーブ機用

※同期の履歴は残りません。

AWS 連携 - リストア

クローン (MASTERモード)

- クローン 情報
- クローン 設定
 - 同期・サービス設定
 - メール設定
 - ログ表示
- NAS同期
 - 同期設定
- Azure連携
 - 同期設定
 - リストア
- AWS連携
 - 同期設定
 - リストア**
- HDD同期
 - 同期設定
 - リストア

ジョブ名	リストア先

リストア設定

リストア元AWSバケット名 amazonaws を使用

AWS アクセスキー ID

AWS シークレットアクセスキー

リストア先フォルダー

クローンは

導入する

同期設定をする

ダウンロードしたら

資料

困ったときには

項目名	説明	クローン		
		M	M2003	S
ジョブ名・同期元	作成した同期一覧を表示します。	○	-	○
リストア元AWSバケット名	リストア元Amazon S3のバケット名を入力します。	○	-	○
AWSアクセスキーID	リストア元Amazon S3のアカウントキーを入力する。	○	-	○
エンドポイント指定	AWS互換サービスを使用する場合のエンドポイントを指定します。	○	-	○
AWSシークレットアクセスキー	リストア元Amazon S3のシークレットアクセスキーを入力します。	○	-	○
リストア先フォルダー	リストア先のフォルダーを設定します。	○	-	○
リストアを開始する	Amazon S3からのリストアを開始します。	○	-	○

M: マスター機用/M2003:Windows Server 2003用/S: スレーブ機用

▶ Amazon S3から復旧する

36

HDD 同期 - 同期設定

クローンは

導入する

同期設定をする

ダウンしたら

資料

困ったときには

項目名	説明	クローン		
		M	M2003	S
ジョブ名・同期元	作成した同期一覧を表示します。	○	○	○
新規ジョブ作成	ジョブを新規作成し、設定します。	○	○	○
編集	選んだジョブを編集します。	○	○	○
削除	選んだジョブを削除します。	○	○	○
ジョブ名	ジョブの名前を設定します。	○	○	○
同期元フォルダー	マスターの同期する共有フォルダーを設定します。	○	○	○
同期先ベースフォルダー	[参照]をクリックして、同期先のフォルダーを選択します。 (同期先は、このベースフォルダーに同期元の最下位フォルダー名が付加されます。)	○	○	○
同期先フォルダー	同期先フォルダーが表示されます。(自動入力)	○	○	○
増分同期	増分同期のスケジュールを設定します。*	○	○	○
フル同期	フル同期のスケジュールを設定します。*	○	○	○
前回実行日時	直近で同期した日時を表示します。	○	○	○
今すぐ同期処理を行う / 同期中止	設定した内容で同期します。フル同期と増分同期を選ぶことができます。実行中の場合は、[同期中止]と表示され、クリックすると中止します。	○	○	○

M：マスター機用/M2003:Windows Server 2003用/S：スレーブ機用

※同期の履歴は残りません。

HDD 同期 - リストア

クローンは

導入する

同期設定をする

ダウンロードしたら

資料

困ったときには

項目名	説明	クローン		
		M	M2003	S
ジョブ名・同期元	作成した同期一覧を表示します。	○	-	○
リストア元フォルダー	リストア元外付けHDDのフォルダーを入力します。	○	-	○
リストア先フォルダー	リストア先のフォルダーを設定します。	○	-	○
リストアを開始する	外付けHDDからの復旧を開始します。	○	-	○

M : マスター機用 / M2003: Windows Server 2003用 / S : スレーブ機用

▶ 外付けHDDからの復旧

38

ログ表示

NarSuS 連携について

ログ情報はNarSuSでも通知されます。別途NarSuSアプリのインストールと製品登録が必要になります。詳しくは、NarSuSサイトをご確認ください。

<https://www.narsus.jp/>

※以下の●は、メールアドレス設定で「同期正常終了時にもメール通知する」にチェックした場合にのみ通知されることを示しています。
 ※以下の◎は、NarSuSからアラートメールが送信されることを示しています。

NAS 同期サービス

表示内容	説明	通知			
		ログ ファイル	イベント ログ	メール	NarSuS
クローンNAS同期サービスを開始しました。	サービスを開始した	○	○	-	○
クローンNAS同期サービスを終了しました。	サービスを終了した (サーバーシャットダウン含む)	○	○	-	○
クローンNAS同期サービスを一時停止しました。	サービスを一時停止した	○	-	-	○
クローンNAS同期サービスを再開しました。	サービスを再開した	○	○	-	○
サービス設定の読み込みに成功しました。	共通設定の読み込みに成功した	○	-	-	-
ジョブ設定の読み込みに成功しました。 (ジョブ数:*ジョブ数*)	ジョブ設定の読み込みに成功した	○	-	-	-
メール通知設定の読み込みに成功しました。	メール設定の読み込みに成功した	○	-	-	-
ジョブ[*ジョブ名*]が実行待機状態になりました。	実行数が上限に達して実行待機になった	○	-	-	-
待機中だったジョブ[*ジョブ名*]の同期を開始します。	待機中だったジョブが開始される	○	-	-	-
ジョブ[*ジョブ名*]は既に実行中・実行待機中です。	実行しようとしたジョブが実行中	○	-	-	-
ジョブ[*ジョブ名*] *個数* 個の増分 フォルダー/ファイル削除が完了しました。	削除完了時(全フォルダー/ファイル成功)	○	-	-	-
ジョブ[*ジョブ名*] *個数* 個の増分 フォルダー/ファイル削除が完了し、* 個数* 個のフォルダー/ファイル削除 に失敗しました。	削除完了時(エラーフォルダー/ファイルあり)	○	-	-	-
ジョブ[*ジョブ名*] *個数* 個の増分 フォルダー/ファイルが削除できません でした。	削除完了時(全フォルダー/ファイル失敗)	○	-	-	-
ジョブ[*ジョブ名*] *個数* 個(内スキップ *個数* 個)の同期が完了し、*個数* 個のフォルダー/ファイル同期に失敗 しました。	コピー完了時(エラーフォルダー/ファイルあり)	○	-	-	-
ジョブ[*ジョブ名*] *個数* 個のフォル ダー/ファイルが同期できませんで した。	コピー完了時(全フォルダー/ファイル失敗)	○	-	-	-
ジョブ[*ジョブ名*] *個数* 個のフォル ダー/ファイル再削除が完了しました。	再削除完了時(全フォルダー/ファイル成功)	○	-	-	-

クローンは

導入する

同期設定をする

ダウンロードしたら

資料

困ったときには

表示内容	説明	通知			
		ログ ファイル	イベント ログ	メール	NarSuS
ジョブ[*ジョブ名*] *個数*個のフォルダー／ファイル再削除が完了し、*個数*個のフォルダー／ファイル再削除に失敗しました。	再削除完了時(エラーフォルダー／ファイルあり)	○	-	-	-
ジョブ[*ジョブ名*] *個数*個のフォルダー／ファイル再同期が完了しました。	再コピー完了時(全フォルダー／ファイル成功)	○	-	-	-
ジョブ[*ジョブ名*] *個数*個のフォルダー／ファイル同期に成功し、*個数*個のフォルダー／ファイル同期に失敗しました。	コピー完了時(全フォルダー／ファイル失敗)	○	-	-	-
ジョブ[*ジョブ名*] *個数*個のエラーログを省略しました。	エラーログの数が上限値を超えていた	○	-	-	-
ジョブ[*ジョブ名*] *個数*個のフォルダー／ファイル削除をリトライします。	削除に失敗したフォルダー／ファイルをリトライする時	○	-	-	-
ジョブ[*ジョブ名*] *個数*個のフォルダー／ファイル同期をリトライします。	コピーに失敗したフォルダー／ファイルをリトライする時	○	-	-	-
前回サービス終了時にジョブ[*ジョブ名*] が実行中・実行待機中でした。	サービス起動時にジョブの実行中フラグが有効のままだった時	○	○	○	-
ログのメール送信に失敗しました。	ログのメール送信に失敗した時	○	○	○	-
ログのイベントログ記録に失敗しました。	ログのイベントログ記録に失敗した時	○	○	○	-
ログのファイル記録に失敗しました。	ログのファイル記録に失敗した時	○	○	○	-
サービス設定の読み込みに失敗しました。	共通設定の読み込みに失敗した時	○	○	-	-
メール通知設定の読み込みに失敗しました。	メール設定の読み込みに失敗した時	○	○	-	-
ジョブ設定の読み込みに失敗しました。	ジョブ設定の読み込みに失敗した時	○	○	-	-
ジョブデータが不正です。	ジョブの設定情報が不正だった時	○	○	○	-
ジョブ[*ジョブ名*] 同期先リストファイルの作成に失敗しました。(エラーコード:*コード番号*) *ファイル名*	リストファイルの作成に失敗した時	○	○	-	-
ジョブ[*ジョブ名*] リストファイルの終了処理に失敗しました。(エラーコード:*コード番号*) *ファイル名*	同期用リストファイルの終了処理に失敗した時	○	○	-	-
設定情報の同期に失敗しました。(エラーコード:*コード番号*)	設定情報の同期に失敗した時	○	○	-	-
ジョブ設定の同期に失敗しました。(エラーコード:*コード番号*)	ジョブ設定の同期に失敗した時	○	○	-	-
情報取得ツールを起動できませんでした。(エラーコード:*コード番号*)	NW情報取得ツールの実行に失敗した時	○	○	-	-
情報取得ツールから終了コードを取得できませんでした。(エラーコード:*コード番号*)	NW情報取得ツールの結果取得に失敗した時	○	○	-	-
コンピューター名の取得に失敗しました。	NW情報取得ツールがコンピューター名の取得に失敗した時	○	○	-	-
IPアドレスの取得に失敗しました。	NW情報取得ツールがIPアドレスの取得に失敗した時	○	○	-	-
ユーザー情報の取得に失敗しました。	NW情報取得ツールがユーザー情報の取得に失敗した時	○	○	-	-
グループ情報の取得に失敗しました。	NW情報取得ツールがグループ情報の取得に失敗した時	○	○	-	-

クローンとは

導入する

同期設定をする

ダウンしたら

資料

困ったときには

表示内容	説明	通知			
		ログ ファイル	イベント ログ	メール	NarSuS
グループメンバ情報の取得に失敗しました。	NW情報取得ツールがグループメンバ情報の取得に失敗した時	○	○	-	-
共有フォルダー情報の取得に失敗しました。	NW情報取得ツールが共有フォルダー情報の取得に失敗した時	○	○	-	-
設定ファイルの作成に失敗しました。	NW情報取得ツールが設定ファイルの作成に失敗した時	○	○	-	-
設定ファイルの書き込みに失敗しました。	NW情報取得ツールが設定ファイルの書き込みに失敗した時	○	○	-	-
設定ファイルが正しく保存できませんでした。	NW情報取得ツールが設定ファイルの保存に失敗した時	○	○	-	-
ワークグループ・ドメイン情報の取得に失敗しました。	NW情報取得ツールがワークグループ・ドメイン情報の取得に失敗した時	○	○	-	-
ジョブ[*ジョブ名*] 同期先ファイルの削除に失敗しました。(エラーコード:*コード番号*) *ファイル名*	同期先ファイルの削除に失敗した時	○	-	-	-
ジョブ[*ジョブ名*] 同期先フォルダーの削除に失敗しました。(エラーコード:*コード番号*) *ファイル名*	同期先フォルダーの削除に失敗した時	○	-	-	-
ジョブ[*ジョブ名*] ファイル時刻のコピーに失敗しました。(エラーコード:*コード番号*) *ファイル名*	ファイル時刻のコピーに失敗した時	○	-	-	-
ジョブ[*ジョブ名*] ファイル属性のコピーに失敗しました。(エラーコード:*コード番号*) *ファイル名*	ファイル属性のコピーに失敗した時	○	-	-	-
ジョブ[*ジョブ名*] ファイルコピーに失敗しました。(エラーコード:*コード番号*) *ファイル名*	ファイルのコピーに失敗した時	○	-	-	-
ジョブ[*ジョブ名*] フォルダ作成に失敗しました。(エラーコード:*コード番号*) *ファイル名*	フォルダの作成に失敗した時	○	-	-	-
ジョブ[*ジョブ名*] ファイルオープンに失敗しました。(エラーコード:*コード番号*) *ファイル名*	同期先ファイルのオープンに失敗した時	○	-	-	-
ジョブ[*ジョブ名*] コピー先の容量が足りませんでした。(エラーコード:*コード番号*) *ファイル名*	同期先の空き容量がなくなった時	○	-	-	-
ジョブ[*ジョブ名*] ファイル時刻のコピーに失敗しました。(エラーコード:*コード番号*) *ファイル名*	ファイル時刻のコピーに失敗した時	○	-	-	-
ジョブ[*ジョブ名*] ファイル属性のコピーに失敗しました。(エラーコード:*コード番号*) *ファイル名*	ファイル属性のコピーに失敗した時	○	-	-	-
ジョブ[*ジョブ名*] 同期用パイプのWRITEに失敗しました。(エラーコード:*コード番号*) *ファイル名*	同期スレッドとのパイプ通信(WRITE)に失敗した時	○	-	-	-
ジョブ[*ジョブ名*] 同期用パイプのREADに失敗しました。(エラーコード:*コード番号*) *ファイル名*	同期スレッドとのパイプ通信(READ)に失敗した時	○	-	-	-
ジョブ[*ジョブ名*] リトライ用ファイルの削除に失敗しました。(エラーコード:*コード番号*) *ファイル名*	リトライ用ファイルの削除に失敗した時	○	○	-	-
ジョブ[*ジョブ名*] リトライ用ファイルの更新に失敗しました。(エラーコード:*コード番号*) *ファイル名*	リトライ用ファイルの更新に失敗した時	○	○	-	-

クローンは

導入する

同期設定をする

ダウンしたら

資料

困ったときには

表示内容	説明	通知			
		ログ ファイル	イベント ログ	メール	NarSuS
ジョブ[*ジョブ名*]同期コマンドが正しくありませんでした。(エラーコード:*コード番号*) *ファイル名*	スレッド間のコマンドが不正だった時	○	-	-	-
ジョブ[*ジョブ名*] ファイルコピーに成功しました。 *ファイル名*	スレッド間のコマンドが不正だった時	○	-	-	-
ジョブ[*ジョブ名*] ファイルコピーをスキップしました。 *ファイル名*	スレッド間のコマンドが不正だった時	○	-	-	-
ジョブ[*ジョブ名*]の同期を開始します。	同期が開始された時	○	○	-	○
ジョブ[*ジョブ名*]を編集、削除しました。	同期ジョブを編集、削除した時	○	○	-	○
ジョブ[*ジョブ名*] *個数*個(内スキップ*個数*個)のフォルダー／ファイル同期が完了しました。	同期完了時(全フォルダー／ファイル成功)	○	○	●	○
ジョブ[*ジョブ名*] *個数*個(内スキップ*個数*個)の同期が完了し、*個数*個のフォルダー／ファイル同期に失敗しました。	同期完了時(エラーフォルダー／ファイルあり)	○	○	○	◎
ジョブ[*ジョブ名*] *個数*個のフォルダー／ファイルが同期できませんでした。	同期完了時(全フォルダー／ファイル失敗)	○	○	○	◎
ジョブ[*ジョブ名*] 同期中止までに*個数*個(内スキップ*個数*個)のフォルダー／ファイル同期が完了しました。	コピー中に同期が中止になった時(全フォルダー／ファイル成功)	○	○	○	◎
ジョブ[*ジョブ名*] 同期中止までに*個数*個(内スキップ*個数*個)の同期が完了し、*個数*個の同期に失敗しました。	コピー中に同期が中止になった時(エラーファイルあり)	○	○	○	◎
ジョブ[*ジョブ名*] 同期中止までに*個数*個のフォルダー／ファイル削除が完了しました。	削除中に同期を中止した時	○	○	○	◎
ジョブ[*ジョブ名*] 同期中止までに*個数*個のフォルダー／ファイル削除が完了し、*個数*個のフォルダー／ファイル削除に失敗しました。	削除中に同期が中止になった時(エラーフォルダー／ファイルあり)	○	○	○	◎
ジョブ[*ジョブ名*] 同期元フォルダーが正しくありません。(エラーコード:*コード番号*) *ファイル名*	同期元フォルダーのチェックに失敗した時	○	○	○	◎
ジョブ[*ジョブ名*] 同期用メモリの確保に失敗しました。(エラーコード:*コード番号*) *ファイル名*	同期用メモリの確保に失敗した時	○	○	○	◎
ジョブ[*ジョブ名*] ネットワークドライブが見つかりませんでした。(エラーコード:*コード番号*) *ファイル名*	同期先のネットワークフォルダーが見つからなかった時	○	○	○	◎
ジョブ[*ジョブ名*] ネットワーク接続用ユーザーへのログインに失敗しました。(エラーコード:*コード番号*)	ネットワーク接続用ユーザーへのログインに失敗した時	○	○	○	◎
ジョブ[*ジョブ名*] ネットワークドライブへのログインに失敗しました。(エラーコード:*コード番号*) *ファイル名*	同期先ネットワークフォルダーへのログインに失敗した時	○	○	○	◎
ジョブ[*ジョブ名*] 同期先フォルダーが正しくありません。(エラーコード:*コード番号*) *ファイル名*	同期先フォルダーのチェックに失敗した時	○	○	○	◎

クローンとは

導入する

同期設定をする

ダウンしたら

資料

困ったときには

表示内容	説明	通知			
		ログ ファイル	イベント ログ	メール	NarSuS
ジョブ[*ジョブ名*] 同期先のクローンのバージョンが違います。(エラーコード:*コード番号*) *同期元のフォルダ名*	マスターとスレーブでクローンのバージョンが 違う	○	○	○	◎
ジョブ[*ジョブ名*] 指定された同期先は、他のコンピューターの同期先に使用されているため、同期できません。(エラーコード:*コード番号*) *同期元のフォルダ名*	すでに使われている同期先	○	○	○	◎

クローンは

導入する

同期設定をする

ダウンしたら

資料

困ったときには

Azure 連携サービス

表示内容	説明	通知			
		ログファイル	イベントログ	メール	NarSuS
クローンAzure連携サービスを開始しました。	サービス開始時	○	○	-	○
クローンAzure連携サービスを終了しました。	サービス終了時(サーバーシャットダウン含む)	○	○	-	-
クローンAzure連携サービスを一時停止しました。	サービス一時停止時	○	-	-	○
クローンAzure連携サービスを再開しました。	サービス再開時	○	○	-	○
Azureからのリストアを開始します。	リストアが開始された時	○	○	-	-
[Azureリストア] *個数*個のリストアが完了しました。	リストア完了時(全ファイル成功)	○	○	●	○
[Azureリストア] *個数*個のリストアが完了し、*個数*個のリストアに失敗しました。	リストア完了時(エラーファイルあり)	○	○	○	◎
[Azureリストア] リストア中止までに*個数*個のリストアが完了しました。	リストア中止時(エラーファイル無し)	○	○	-	-
[Azureリストア] リストア中止までに*個数*個のリストアが完了し、*個数*個のリストアに失敗しました。	リストア中止時(エラーファイルあり)	○	○	-	-
[Azureリストア] *個数*個のフォルダー／ファイルがリストアできませんでした。	リストア完了時(全フォルダー／ファイル失敗)	○	○	○	◎
[Azureリストア] リストア先フォルダーが正しくありません。(エラーコード:*コード番号*) *ファイル名*	リストア先フォルダーが正しくなかったとき	○	○	○	◎
[Azureリストア] リストア用メモリの確保に失敗しました。(エラーコード:*コード番号*) *ファイル名*	リストア用メモリの確保に失敗した時	○	○	○	◎
ジョブ[*ジョブ名*]の同期を開始します。	同期が開始された時	○	○	-	○
ジョブ[*ジョブ名*]を編集、削除しました。	同期ジョブを編集、削除した時	○	○	-	○
ジョブ[*ジョブ名*] *個数*個(内スキップ*個数*個)のフォルダー／ファイル同期が完了しました。	同期完了時(全フォルダー／ファイル成功)	○	○	○	○
ジョブ[*ジョブ名*] *個数*個(内スキップ*個数*個)の同期が完了し、*個数*個のフォルダー／ファイル同期に失敗しました。	同期完了時(エラーフォルダー／ファイルあり)	○	○	○	◎
ジョブ[*ジョブ名*] *個数*個のフォルダー／ファイルが同期できませんでした。	同期完了時(全フォルダー／ファイル失敗)	○	○	○	◎
ジョブ[*ジョブ名*] 同期中止までに*個数*個(内スキップ*個数*個)のフォルダー／ファイル同期が完了しました。	コピー中に同期が中止になった時(全フォルダー／ファイル成功)	○	○	○	◎
ジョブ[*ジョブ名*] 同期中止までに*個数*個(内スキップ*個数*個)の同期が完了し、*個数*個の同期に失敗しました。	コピー中に同期が中止になった時(エラーファイルあり)	○	○	○	◎
ジョブ[*ジョブ名*] 同期中止までに*個数*個のフォルダー／ファイル削除が完了しました。	削除中に同期を中止した時	○	○	○	◎

クローンは

導入する

同期設定をする

ダウンしたら

資料

困ったときには

表示内容	説明	通知			
		ログ ファイル	イベント ログ	メール	NarSuS
ジョブ[*ジョブ名*] 同期中止までに* 個数*個のフォルダー／ファイル削除 が完了し、*個数*個のフォルダー／ファ イル削除に失敗しました。	削除中に同期が中止になった時(エラーフォル ダー／ファイルあり)	○	○	○	◎
ジョブ[*ジョブ名*] 同期元フォルダー が正しくありません。(エラーコード:* コード番号*) *ファイル名*	同期元フォルダーのチェックに失敗した時	○	○	○	◎
ジョブ[*ジョブ名*] 同期用メモリの確 保に失敗しました。(エラーコード:*コー ド番号*) *ファイル名*	同期用メモリの確保に失敗した時	○	○	○	◎
ジョブ[*ジョブ名*] 指定された同期先 は、他のコンピューターの同期先に使 用されているため、同期できません。(エ ラーコード:*コード番号*) *同期元の フォルダー名*	すでに使われている同期先	○	○	○	◎

ク
ロ
ー
ン
と
は

導
入
す
る

同
期
設
定
を
す
る

ダ
ウ
ン
し
た
ら

資
料

困
っ
た
と
き
に
は

AWS 連携サービス

表示内容	説明	通知			
		ログファイル	イベントログ	メール	NarSuS
クローンAWS連携サービスを開始しました。	サービス開始時	○	○	-	○
クローンAWS連携サービスを終了しました。	サービス終了時(サーバーシャットダウン含む)	○	○	-	-
クローンAWS連携サービスを一時停止しました。	サービス一時停止時	○	-	-	○
クローンAWS連携サービスを再開しました。	サービス再開時	○	○	-	○
AWSからのリストアを開始します。	リストアが開始された時	○	○	-	-
[AWSリストア] *個数*個のリストアが完了しました。	リストア完了時(全ファイル成功)	○	○	●	○
[AWSリストア] *個数*個のリストアが完了し、*個数*個のリストアに失敗しました。	リストア完了時(エラーファイルあり)	○	○	○	◎
[AWSリストア] *個数*個のフォルダー／ファイルがリストアできませんでした。	リストア完了時(全フォルダー／ファイル失敗)	○	○	○	◎
[AWSリストア] リストア中止までに%1!個のリストアが完了しました。	リストア中止時(エラーファイル無し)	○	○	-	-
[AWSリストア] リストア中止までに*個数*個のリストアが完了し、*個数*個のリストアに失敗しました。	リストア中止時(エラーファイルあり)	○	○	-	-
[AWSリストア] リストア先フォルダーが正しくありません。(エラーコード:*コード番号*) *ファイル名*	リストア先フォルダーが正しくなかったとき	○	○	○	◎
[AWSリストア] リストア用メモリの確保に失敗しました。(エラーコード:*コード番号*) *ファイル名*	リストア用メモリの確保に失敗した時	○	○	○	◎
ジョブ[*ジョブ名*]の同期を開始します。	同期が開始された時	○	○	-	○
ジョブ[*ジョブ名*]を編集、削除しました。	同期ジョブを編集、削除した時	○	○	-	○
ジョブ[*ジョブ名*] *個数*個(内スキップ*個数*個)のフォルダー／ファイル同期が完了しました。	同期完了時(全フォルダー／ファイル成功)	○	○	●	○
ジョブ[*ジョブ名*] *個数*個(内スキップ*個数*個)の同期が完了し、*個数*個のフォルダー／ファイル同期に失敗しました。	同期完了時(エラーフォルダー／ファイルあり)	○	○	○	◎
ジョブ[*ジョブ名*] *個数*個のフォルダー／ファイルが同期できませんでした。	同期完了時(全フォルダー／ファイル失敗)	○	○	○	◎
ジョブ[*ジョブ名*] 同期中止までに*個数*個(内スキップ*個数*個)のフォルダー／ファイル同期が完了しました。	コピー中に同期が中止になった時(全フォルダー／ファイル成功)	○	○	○	◎
ジョブ[*ジョブ名*] 同期中止までに*個数*個(内スキップ*個数*個)の同期が完了し、*個数*個の同期に失敗しました。	コピー中に同期が中止になった時(エラーファイルあり)	○	○	○	◎
ジョブ[*ジョブ名*] 同期中止までに*個数*個のフォルダー／ファイル削除が完了しました。	削除中に同期を中止した時	○	○	○	◎

クローンはとほ

導入する

同期設定をする

ダウンしたら

資料

困ったときには

表示内容	説明	通知			
		ログ ファイル	イベント ログ	メール	NarSuS
ジョブ[*ジョブ名*] 同期中止までに* 個数*個のフォルダー／ファイル削除 が完了し、*個数*個のフォルダー／ファ イル削除に失敗しました。	削除中に同期が中止になった時(エラーフォル ダー／ファイルあり)	○	○	○	◎
ジョブ[*ジョブ名*] 同期元フォルダー が正しくありません。(エラーコード:* コード番号*) *ファイル名*	同期元フォルダーのチェックに失敗した時	○	○	○	◎
ジョブ[*ジョブ名*] 同期用メモリの確 保に失敗しました。(エラーコード:*コー ド番号*) *ファイル名*	同期用メモリの確保に失敗した時	○	○	○	◎
ジョブ[*ジョブ名*] 指定された同期先 は、他のコンピューターの同期先に使 用されているため、同期できません。(エ ラーコード:*コード番号*) *同期元の フォルダー名*	すでに使われている同期先	○	○	○	◎

ク
ロ
ー
ン
と
は

導
入
す
る

同
期
設
定
を
す
る

ダ
ウ
ン
し
た
ら

資
料

困
っ
た
と
き
に
は

外付け HDD 同期サービス

表示内容	説明	通知			
		ログ ファイル	イベント ログ	メール	NarSuS
クローンHDD同期サービスを開始しました。	サービス開始時	○	○	-	○
クローンHDD同期サービスを終了しました。	サービス終了時(サーバーシャットダウン含む)	○	○	-	-
クローンHDD同期サービスを一時停止しました。	サービス一時停止時	○	-	-	○
クローンHDD同期サービスを再開しました。	サービス再開時	○	○	-	○
ジョブ[*ジョブ名*]の同期を開始します。	同期が開始された時	○	○	-	○
ジョブ[*ジョブ名*]を編集、削除しました。	同期ジョブを編集、削除した時	○	○	-	○
ジョブ[*ジョブ名*] *個数*個(内スキップ*個数*個)のフォルダー/ファイル同期が完了しました。	同期完了時(全フォルダー/ファイル成功)	○	○	●	○
ジョブ[*ジョブ名*] *個数*個(内スキップ*個数*個)の同期が完了し、*個数*個のファイル同期に失敗しました。	同期完了時(エラーファイルあり)	○	○	○	◎
ジョブ[*ジョブ名*] *個数*個のフォルダー/ファイルが同期できませんでした。	同期完了時(全フォルダー/ファイル失敗)	○	○	○	◎
ジョブ[*ジョブ名*] 同期中止までに*個数*個(内スキップ*個数*個)のフォルダー/ファイル同期が完了しました。	コピー中に同期が中止になった時(全フォルダー/ファイル成功)	○	○	○	◎
ジョブ[*ジョブ名*] 同期中止までに*個数*個(内スキップ*個数*個)の同期が完了し、*個数*個の同期に失敗しました。	コピー中に同期が中止になった時(エラーファイルあり)	○	○	○	◎
ジョブ[*ジョブ名*] 同期中止までに*個数*個のフォルダー/ファイル削除が完了しました。	削除中に同期を中止した時	○	○	○	◎
ジョブ[*ジョブ名*] 同期中止までに*個数*個のフォルダー/ファイル削除が完了し、*個数*個のフォルダー/ファイル削除に失敗しました。	削除中に同期が中止になった時(エラーフォルダー/ファイルあり)	○	○	○	◎
ジョブ[*ジョブ名*] 同期元フォルダーが正しくありません。(エラーコード:*コード番号*) *ファイル名*	同期元フォルダーのチェックに失敗した時	○	○	○	◎
ジョブ[*ジョブ名*] 同期用メモリの確保に失敗しました。(エラーコード:*コード番号*) *ファイル名*	同期用メモリの確保に失敗した時	○	○	○	◎
ジョブ[*ジョブ名*] 同期先フォルダーが正しくありません。(エラーコード:*コード番号*) *ファイル名*	同期先フォルダーのチェックに失敗した時	○	○	○	◎

クローンはとは

導入する

同期設定をする

ダウンしたら

資料

困ったときには

困ったときには

クローンは

導入する

同期設定をする

ダウンしたら

資料

困ったときには

同期が実行できない

- 同期設定を再度確認してください。
- マスターを再起動してみてください。

同期がエラー終了する

- マスターとスレーブで同じバージョンのクローンがインストールされていることを確認してください。
 - 同期先の空き容量不足が考えられます。同期するファイルを減らしてください。
 - 同期とユーザーのファイル操作が重複していたことが考えられます。同期中はLAN DISKのファイル操作を極力ご遠慮ください。他のファイルの同期は完了しています。該当ファイルは次回同期時に同期されます。
 - [VSSを利用する] のチェックを外してお試しください。VSS実行中にファイル更新がおこなわれている場合、ファイル同期が正常に行われな場合があります。
※VSSは、Windows Server 2003は対応しておりません。
- 上記で解決しない場合は、サポートセンターにお問い合わせください。

同期が実行されたのか確認したい

コンピューターの管理よりイベントログにて結果を確認できます。
メール通知設定をおこなうと ジョブ完了時にメールで結果を確認できます。
また、NarSuSに登録するとNarSuSからの通知で確認できます。

同期時刻が重なった場合はどうなりますか？

開始時刻が早いものから実行しそのジョブが完了後に、順次実行されます。

メールが送信できない

メール設定をご確認ください。 [【メール設定をする】\(10ページ\)](#) 参照
メール設定後はテストメールを送信し、正常にメール送信できることをご確認ください。

同期データのファイルやフォルダー単位での復元(リストア) をしたい

ファイル単位での復元機能はありません。
スレーブには、マスターと同じファイル・フォルダー構成で配置されていますので、管理者が直接アクセスして取り出すことができます。
外付けHDDで同期した場合、管理者が直接外付けHDDにアクセスすることで、フォルダー単位での復元ができます。
Microsoft Azureではコンテナ単位、Amazon S3 (AWS) ではバケット単位で、指定されたフォルダーへの復元ができます。

ネットワーク設定切替したら、エラーが表示された

[中断] ボタンをクリックし、以下の手順にしたがってください。

- ① 登録された「ユーザー」「グループ」「共有フォルダー」がマスターと同じ設定に切り替わっていることをご確認ください。
 - ② 切り替わっていない設定を、手動で設定します。
 - ③ 再度切替ツールで切り替えをおこないます。
 - ④ [【マスター/スレーブ間同期】\(14ページ\)](#)の手順1を参照し、スレーブ機として設定してください。
- ※ [続行] ボタンをクリックした場合は、そのまま「IPアドレス」と「コンピューター名」の切り替えを行います。その後、④を行ってください。

スレーブ機をマスターに切り替えた後、アクセスできない

ユーザーパスワードが変更されていることが考えられます。

切り替え後のユーザーパスワードは、ユーザー名と同じになります。ユーザーごとにパスワードの再設定を行ってください。

※ すでにマスターと同じユーザーが存在していた場合、昇格時にパスワードは変更されません。

クラウドストレージへの同期に失敗する

クラウドストレージ同期に関する設定を、再度確認してください。

- [【NAS同期 - 同期設定\(マスターのみ\)】\(46ページ\)](#) 参照
- [【Azure連携 - 同期設定】\(49ページ\)](#) 参照
- [【AWS連携 - 同期設定】\(51ページ\)](#) 参照
- [【HDD同期 - 同期設定】\(53ページ\)](#) 参照

ActiveDirectoryサーバーをマスター機にした後、同期に失敗する

以下の操作をお試しください。

- ① マスター機にユーザー「synclogin」が作られています。
その「synclogin」を管理者グループ(Administrator)に所属させます。
- ② スレーブ機をActiveDirectoryから離脱させ、Workgroupモードで運用します。
- ③ マスター機で同期ジョブを設定する際、[同期先コンピューター名]にスレーブ機の名前を手入力します。
- ④ すべての操作が終わったら、同期が成功するかご確認ください。

外付けHDDへの同期に失敗する

同期元のLAN DISKに外付けHDDが正しく接続されていることをご確認ください。

マスター機とスレーブ機のファイル(フォルダー)数に違いがある

- フル同期を実行してください。
- ログを確認し、エラーが発生していないか確認してください。
- マスター機の同期対象にシステムファイル(フォルダー)が含まれていないか確認してください。

マスター昇格時にエラーが発生する

- マスター機とIPアドレスの重複が発生していることが考えられます。マスター機をネットワークから取り外してください。
- その他のエラーが発生している可能性があります。以下に保存されているログファイルの内容をご確認ください。

C:\ProgramData\I-O DATA\SyncwithBE\Log\ChHDLMinfo.log

※隠しファイルになっている可能性があります。エクスプローラーで、[隠しファイル、隠しフォルダー、および隠しドライブを表示する]を有効にしてご確認ください。

クローンは
と

導入する

同期設定をする

ダウンしたら

資料

困ったときには

[【マニュアルアンケートはこちら】](#)

よりよいマニュアル作りのため、アンケートにご協力願います。